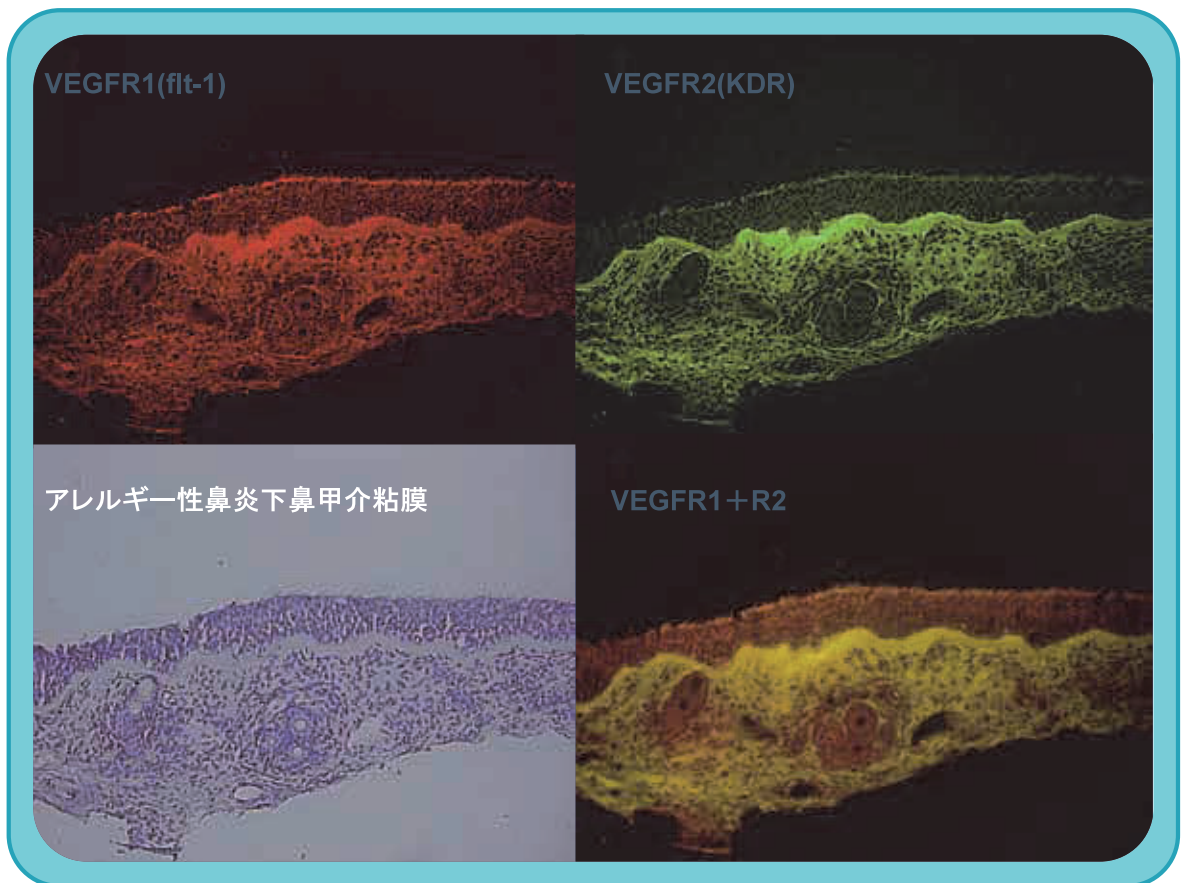


第 20号

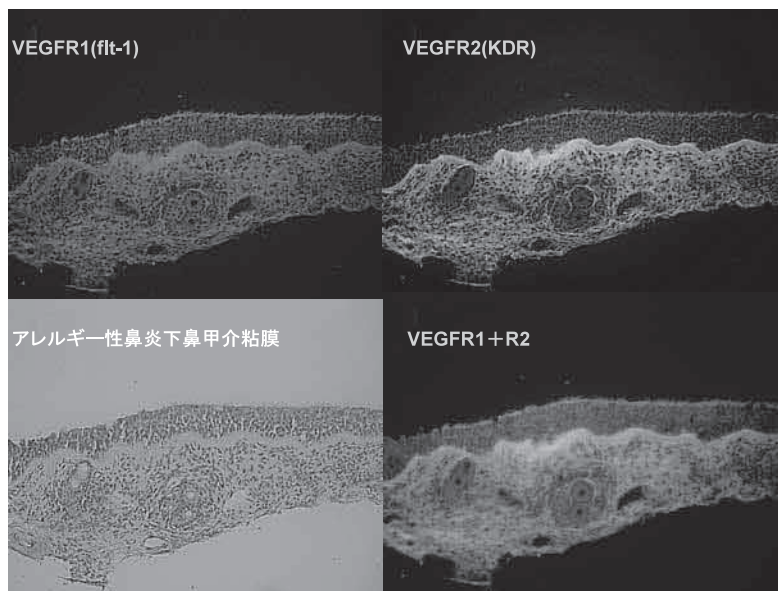
さくらじま

2006



鹿児島大学大学院
聴覚頭頸部疾患学講座
(旧耳鼻咽喉科学教室)
同門会誌

〔表紙写真の説明〕



血管内皮細胞増殖因子受容体 (VEGFR)

アレルギー性鼻炎例の下鼻甲粘膜の上皮鼻腔側に VEGFR1 および VEGFR2 の陽性像を認める。その他、肥厚した基底膜、腺組織、血管などにも染色性陽性を認める。(松根)

目

次

巻 頭 言	1
I. 教室来訪者	3
II. 教室行事	
1. 共催の講演会	4
2. 第8回 耳鼻咽喉科桜島フォーラム	8
3. 第6回 鼻の日 市民講座	9
4. 耳の日 市民公開講座「補聴器の正しい使い方」	9
5. 2005年水曜セミナー	11
6. 第12回 アレルギー週間	13
III. 同門会報告	14
IV. 地域医療報告	
1. 巡回診療（県医務課）	16
2. 身体障害者巡回診療	16
3. 学校保健（統計報告）	16
V. 特殊外来通信	
1. アレルギー外来	19
2. 副鼻腔炎外来	19
3. 頭頸部腫瘍外来：毎週木曜日（予約制）	20
4. 難聴・耳鳴り外来	21
VI. 病理集計	22
VII. 各省庁諸研究	23
VIII. 業 績	
1. 原 著	24
2. 総 説	25
3. その他	28
4. 国内学会発表	28
5. 国際学会発表	35
IX. 医局通信	
1. 医局人事	37
2. 学会報告	
① 第106回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	38
② 第17回日本アレルギー学会春季臨床大会	38

③	第4回鹿児島めまい研究会	39
④	第67回耳鼻咽喉科臨床学会	39
⑤	第29回日本頭頸部癌学会	39
⑥	第20回九州連合地方部会学術講演会	40
⑦	第35回日本耳鼻咽喉科感染症研究会・第29回日本医用エアロゾル研究会	41
⑧	第18回日本口腔・咽頭学会総会・学術講演会	41
⑨	第44回日本鼻科学会	42
⑩	第15回日本耳科学会	42
⑪	第57回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会	43
⑫	第16回頭頸部外科学会	43
⑬	第18回気道病態シンポジウム	44
⑭	第24回免疫アレルギー学会	44
⑮	5 th International Symposium Meniere's Disease & Inner Ear Homeostasis Disorders	45
⑯	5 th Extraordinary International Symposium on Recent Advances in Otitis Media 24-27 April 2005 Grand Hotel Krasnapolsky Amsterdam, The Netherlands	47
⑰	X VIII WORLD CONGRESS OF INTERNATIONAL FEDERATION OF OTO-RHINO-LARYNGOLOGICAL SOCIETIES	48
3. 関連病院便り		
①	国立病院機構 鹿児島医療センター	49
②	県立大島病院便り	49
③	鹿屋医療センター便り	50
④	鹿児島市立病院便り	52
⑤	済生会川内病院便り	52
⑥	鹿児島生協病院便り	54
⑦	天辰病院便り	55
X. 関連病院		
XI. 海外同門会名簿		
XII. 自治医大研修生		
同門会会則		
編集後記		

巻 頭 言

黒 野 祐 一

卒後臨床研修の必須化が始まって2年が経過した今年、全国すべての大学病院そして診療科で待望の新入局員の獲得に向けて様々な努力がなされました。しかし、我々の期待に反して、大学病院での専門医教育を希望した医師の数は卒後臨床研修制度導入以前の人員を大きく下回り、さらに、耳鼻咽喉科の新入局員の全国総数は例年よりずいぶん少なかったと報じられています。こうした動向は耳鼻咽喉科を含むすべての外科系の診療科に共通し、大きな問題となっています。卒後臨床研修の間に垣間見た外科医の多忙さが、その一因かもしれません。以前、たまたま目にしたある新聞に、卒後臨床研修を終えようとする医師を対象とした研修後の進路を選択するに際して重視する要因に関するアンケート調査の結果が掲載されていました。その調査によると、第1位は「忙しくないこと」、第2位が「自分の時間が持てること」、そして第3位は「高収入であること」だそうです。第1位と第2位は同じことのようにですが、そうではなく、勤務時間内の仕事が忙しくなく、しかも、いわゆるアフター5や休暇が確保できるということだそうです。恵まれた環境の中で、受験勉強や医学部教育そして卒後臨床研修をマイペースでこなし、それが許容された、いわゆるX世代の若者からすれば当然の要望なのかもしれません。しかし、まだ専門教育を受けないうちから、このような安易な考えを自らの医師像として描いて良いのだろうか、日本の医療の将来に不安を抱いたのは私だけではないと願う気持ちです。ちなみに私が最も期待した「医師としての生き甲斐」は、ベスト10に入っていませんでした。振り返って、我が耳鼻咽喉科教室はと考えると、少ない教室員全員が早朝から外来や病棟を慌しく駆け回り、夜遅くまでの頭頸部外科手術や急患への対応、そして日直や宿直に追われ、むしろアフター5のほうが忙しいくらいの毎日。さらには、耳鼻咽喉科の専門的処置や手術手技に習熟するまでは高収入は得られないと、今時の研修医が要求する3大要因をすべてみごとに欠いています。これでは新入局員を望むことは至難の業と自ら納得するばかりです。とは言え、今年はいずれいことに牧瀬君と早水君の2名の新人を迎えることができました。並々ならぬ気力と体力を必要とする耳鼻咽喉科医を目指して我々の教室の扉を敢えて叩いた彼らの夢を大切に、耳鼻咽喉科医としての素晴らしい生き甲斐を彼らが見出すことができるように全力を投じて指導しなければ、その責任の重さをあらためて実感しています。

今年のもうひとつの大きなトピックは、医療費の改正です。診療部門担当の病院長補佐を命じられ、病院収益の増加と経費削減に奔走し、なんとか全職員の理解と努力によって昨年度を若干上回る実績を挙げる事ができたと喜んだのも束の間、今回の医療費改

正で、今年度は昨年度と同じ診療を行ったとしても、約4億円の赤字を生じることがすでに予想されています。これをいかに補正して黒字に転じるか、今のところこれといった妙案はありません。職員の更なる努力をとというのは簡単ですが、個々の労働はすでに極限の状態にあり、これ以上の鞭は医師のみならず全職員の業務に対する意欲を削ぎ、また医療事故を招き、かえって大きな減収になり兼ねません。利益への固執は法人化後の大学病院が避けては通れない事実ではありますが、高度医療を提供し地域医療の要となるべき大学病院、そしてこれを実践できる医師を育成する教育の場としての大学の使命を今一度熟考する必要があるように思います。

耳鼻咽喉科診療については今年あまり大きな改正はなかったものの、今後は処置点数の包括化などの厳しい現実がすぐそこに迫っています。これに対処するためには、耳鼻咽喉科診療の独自性と重要性を訴えるだけでなく、より専門性の高い知識と手技を獲得すべく我々のさらなる努力が要求されてきます。今年も講演会や講習会などを引き続き開催し、向上心に満ちた同門会そして地方部会会員の皆様のために少しでも役に立ちたいと願っております。より多数の会員の皆様のご参加と忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

I . 教室来訪者

(平成17年 1月~12月)

8月 宮崎医科大学耳鼻咽喉科教授 小 宗 静 男

9月 熊本大学医学部耳鼻咽喉科教授 湯 本 英 二

9月 島根医科大学耳鼻咽喉科教授 川 内 秀 之

1. 共催の講演会

1. 第31回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会（平成17年4月14日）

特別講演：「咽喉頭酸逆流症（LPRD）」

－耳鼻咽喉科で診断治療するための知識－

渡邊 雄介 先生

（国際医療福祉大学附属病院三田病院 耳鼻咽喉科 助教授）

一般演題：「嫌気性菌と扁桃周囲膿瘍の治療」

西元 謙吾 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「悪性頭位眩暈症（MPPV）を呈した小脳梗塞の1例」

岩元 正広 先生（いわもと耳鼻咽喉科）

2. 第32回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会（平成17年5月26日）

特別講演：「更生医療の耳鼻咽喉科領域への応用」

伊藤 壽一 先生

（京都大学大学院医学研究科 感覚運動系外科学講座耳鼻咽喉科・

頭頸部外科学 教授）

一般演題：「頭頸部領域における重複乳頭腫症の1例について」

川島 雅樹 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「反復する鼻出血に対する塞栓術について」

早水 佳子 先生（鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科）

3. 第33回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会（平成17年6月11日）

特別講演：「難聴の遺伝子診断とその臨床応用」

宇佐美 真一先生（信州大学大学院医学研科耳鼻咽喉科学 教授）

一般演題：「当院における補聴器外来の現況」

清田 隆二 先生（清田耳鼻咽喉科 院長）

「頬部に発生したMFHの一症例」

出口 浩二 先生（県立大島病院 耳鼻咽喉科）

「当科における耳硬化症の手術症例」

笠野 藤彦 先生（鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科）

「当科における手術症例の動向について」

相良 ゆかり 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「当科における頭頸部悪性腫瘍症例の動向」

大堀 純一郎 先生 (鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

4. 第34回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 (平成17年7月21日)

特別講演：「頭頸部腫瘍の治療戦略—最近の動向—」

福田 諭 先生

(北海道大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野
教授)

一般演題：「頸部先天性嚢胞疾患と思われた腫瘍症例の2症例」

宮下 圭一 先生 (鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

「頭頸部腫瘍における遊離皮弁の当科での現状と課題」

林 多聞 先生 (鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

5. 第4回鹿児島めまい研究会 (平成17年7月28日)

特別講演：「めまい u p t o d a t e」

喜多村 健 先生

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科耳鼻咽喉科学分野
教授)

一般演題：「経過中に眼振が変化した良性発作性頭位めまい症の一例」

宮之原郁代, 宮下圭一, 相良ゆかり, 西元謙吾, 黒野祐一

「急性感音難聴で発症した聴神経腫瘍の一例」

相良ゆかり, 宮之原郁代, 谷本洋一郎, 黒野祐一

6. 第35回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 (平成17年8月25日)

特別講演：「私達が行っている甲状腺外科」

北野 博也 先生

(鳥取大学医学部 感覚運動医学講座耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野
教授)

一般演題：「好酸球性副鼻腔炎由来培養線維芽細胞からのEotaxin産生に関する
実験的検討」

大堀 純一郎 先生 (鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

「プラナルカスト (オノン) 投薬による鼻茸への好酸球浸潤抑制に関
する臨床的検討」

吉福 孝介 先生 (鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

7. 第36回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 (平成17年9月22日)

特別講演：「鼻副鼻腔炎における粘液過分泌とその功罪」

清水 猛史 先生 (滋賀医科大学医学部 耳鼻咽喉科 教授)

- 一般演題：「腫瘍性骨軟化症をきたした篩骨洞腫瘍症例」
宮下 圭一 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
「上顎 Epidermoid Cyst 症例」
谷本 洋一郎 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
8. 第11回南九州上気道感染症臨床懇話会（平成17年10月13日）
特別講演：「副鼻腔炎ガイドラインをめぐって」
市村 恵一 先生（自治医科大学 耳鼻咽喉科 教授）
一般演題：「腫瘍局在部位による扁桃周囲膿瘍の臨床像の相違」
西元 謙吾 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
「Xp 副鼻腔陰影と小児アレルギー性副鼻腔炎におけるクラリスロマイシンの効果に関する検討」
松根 彰志 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
9. 第7回上気道アレルギー疾患を考える会（平成17年11月10日）
特別講演：「アレルギーマーチの観点からみたアレルギー性鼻炎と気管支喘息」
星岡 明 先生（千葉県こども病院 アレルギー科 主任医長）
一般演題：「2005年スギ花粉症外来患者における患者満足度の検討」
宮之原 郁代 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
「スギ花粉における初期療法の意義」
黒野 祐一 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授）
10. 第37回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会（平成18年2月2日）
特別講演：「耳鼻咽喉科領域での持続咳嗽について
－喉頭アレルギーを含む－」
内藤 健晴 先生
（藤田保健衛生大学医学部耳鼻咽喉科 教授）
一般演題：「アレルギー性副鼻腔炎と好酸球性副鼻腔炎の診断および治療における留意点」
吉福 孝介 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
「塩酸オロパタジンのスギ花粉症初期療法における有用性について
－特に花粉少量飛散地域における有用性を中心に－」
宮之原 郁代 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
11. 第14回鹿児島アレルギー懇話会（平成18年2月16日）
特別講演Ⅰ：「スギ花粉症治療に関する最近の話題」
黒野 祐一 先生
（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科聴覚頭頸部疾患学 教授）

「今年のスギ花粉症は？」

岸川 禮子 先生 (国立病院機構福岡病院アレルギー科 医長)

特別講演Ⅱ：「抗体医薬開発の現状：とくにIL-18をめぐって」

杉村 和久 先生

(鹿児島大学工学部生体工学科 分子生物工学講座 教授)

特別講演Ⅲ：「アレルギーマーチとヒスタミン H1受容体拮抗薬について」

森本 幾夫 先生

(東京大学医学科研究所先端医療研究センター免疫病態分野 教授)

12. 第38回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 (平成18年3月16日)

特別講演：「喉頭疾患の治療：最近の話題」

大森 孝一 先生

(福島県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授)

一般演題：「当科における突発性難聴」

下麥 哲也 先生 (鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

「当科における急性咽喉頭蓋炎」

西元 謙吾 先生 (鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

2. 第8回 耳鼻咽喉科桜島フォーラム

黒野教授が就任されて以来、大学病院で経験した、稀な症例・問題症例を開業の先生方、関連病院の先生方と共に検討していく耳鼻咽喉科桜島フォーラムも今回で8回目を迎えました。会場は、県医師会館で行われ、年末の忙しい時期にもかかわらず今回も多数の先生方に御参加頂きました。

症例検討では4例のディスカッションを行い、様々な御意見をいただきました。後半の話題提供は、福岩先生がアメリカでの仕事についての内容紹介、黒野教授が臨床に直結する急性喉頭蓋炎についての講演で、少しでも皆様にお役にたてたかと思えます。今年も昨年のコンピューターのトラブルを踏まえ、万全なバックアップ体制で臨み、無事フォーラムを終えることができました。

第8回 「耳鼻咽喉科桜島フォーラム」

平成17年12月8日（木） 19:00～21:00

鹿児島県医師会館中ホール2

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| I. 開会の挨拶 | 黒野 祐一 教授 |
| II. 症例検討 (Moderator ; 林多聞先生) | |
| 1. 「視力障害をきたした副鼻腔病変」 | 大堀純一郎 先生 |
| 2. 「小児の頬部腫脹」 | 吉福 孝介 先生 |
| 3. 「出血性鼻腔腫瘍」 | 谷本洋一郎 先生 |
| 4. 「進行する伝音性難聴」 | 相良ゆかり 先生 |
| III. 話題提供 | |
| 1. 「記憶型樹状細胞を介した長期持続型粘膜アジュバンドについて」 | 福岩 達哉 先生 |
| 2. 「急性喉頭蓋炎の診療における留意点」 | 黒野 祐一 教授 |

(文責：西元)

3. 第6回 鼻の日 市民講座

8月7日（日）13時より、鹿児島県医師会館にて例年のごとく、「第6回鼻の日市民講座」（無料）を開催しました。テーマとしては、これまでもとりあげたことのある「いびき・睡眠時無呼吸」のテーマをとりあげつつも、今回新たに、歯科矯正の先生をお招きして以下の内容でした。

司会進行 鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科 西元謙吾 先生

「鼻の病気といびき・睡眠時無呼吸症候群について」

鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科 松根彰志 先生

「睡眠時無呼吸症候群の口内治療装置について」

鹿児島大学病院 歯科矯正科 小椋幹記 先生

それぞれの講演終了後、参加いただいた方々との「質疑応答」と、業者の皆様にご協力いただいた検査や治療のための「器械展示」を行いました。一般市民の参加者は65名でした。今回で第6回をむかえ、「鼻の日市民講座」もかなり定着してきました。今後とも内容を充実させつつ安定的に継続できたらと考えています。

（文責：松根彰志）

4. 耳の日 市民公開講座「補聴器の正しい使い方」

日時：平成18年3月5日（日） 13：30～15：30

場所：鹿児島県医師会館 3階 中ホール（鹿児島中央駅前）

今年も昨年に引続き、日耳鼻鹿児島県地方部会・鹿児島県耳鼻咽喉科医会・（中）日本補聴器販売店協会鹿児島県部会の主催・共催で、耳の日市民公開講座を開催いたしました。今年のテーマは「補聴器の正しい使い方」とし、まず特別講演として、以下1）～3）を行いました。

1) 補聴器のしくみ

朝隈耳鼻咽喉科 院長 朝隈真一郎 先生

2) 補聴器が必要な人, 役立つ人

鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科 宮之原郁代 先生

3) 補聴器の福祉補助

鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科嘱託 (補聴器キーパーソン) 鹿島直子 先生

次に, 補聴器無料体験コーナーを企画いたしました。当日出席者は45名で, 大変短い時間ではありましたが, 多くの方に補聴器を体験して頂きました。最後に今回の企画についての評価目的にアンケートを取らせていただきましたので, 結果をご報告いたします。

アンケート結果 (回収率71%)

1) 今回の講座についてどのようにして知りましたか?

新聞	59%
ポスター	3%
その他	38%

2) 講演内容はいかがでしたか?

わかりやすい	84%
ややわかりにくい	13%
むずかしい	3%

3) 講演時間はいかがでしたか?

ちょうどよい	97%
短い	3%
長い	0%

4) 講演日程はいかがでしたか?

土曜日午後がよい	28%
日曜日午後でよい	53%
平日夜がよい	0%
土日どちらでもよい	13%
回答なし	6%

5) 補聴器体験された方へおききします。

ためになった	100%
どちらでもない	0%
ためにならなかった	0%

以上の結果でした。今後も「耳の日」に社会に広くアピールできるような企画を開催

できました幸いです。また、今回ご協力いただきました多くの皆さまにこの場をかりて厚くお礼申し上げます。

(文責：宮之原郁代)

5. 2005年水曜セミナー

松根彰志助教授

副鼻腔炎とVEGFについて

耳鼻咽喉科手術におけるナビゲーションシステム応用について

宮之原郁代先生

ムチン産生に対するグルコシルチコイドの作用について

鼻茸におけるムチン産生の制御機構—アスピリン喘息とマスト細胞—

ムチン制御のメカニズム—MUC 2とMUC 5の相互関係—

西元謙吾先生

頸部郭清術における内頸静脈，副神経温存の限界

ソルセイブと他の味覚機能検査との関係

上咽頭癌と頸部郭清術

急性喉頭蓋炎と咽頭所見

福岩達哉先生

NALT Dendritic Cell Targeting Molecular Adjuvants Induce Long-Lasting Mucosal Immune Responses

免疫応答における記憶型樹状細胞の重要性

相良ゆかり先生

当科における突発性難聴症例について

耳硬化症と耳小骨奇形

副咽頭間隙腫瘍について

林 多聞先生

喉頭早期癌に対するCO₂レーザー手術

喉頭肉芽腫について（GERDとの関連について）

頭頸部腫瘍に対するPETの有用性について

Ejnell法による声門開大術

吉福孝介先生

鼾・睡眠時無呼吸症候群に対する手術療法について

喉頭結核について

プラシラカスト投与による鼻茸への好酸球浸潤抑制に関する臨床的検討

好酸球性副鼻腔炎について

田中紀充先生

I g A腎症と口蓋扁桃摘出術について

医科研研修報告 ケモカインCXCL13

論文精読：CXCL 13 is required for B1 cell Homing, Natural Antibody Production,
and Body Cavity Immunity

睡眠呼吸障害研究会出席報告

大堀純一郎先生

当科における男性甲状腺腫瘍に対する検討

Eotaxin 発現のメカニズムについて

TNF- α と IL-4 の Eotaxin 発現における相乗効果のメカニズム

下麥哲也先生

医療機関における個人情報の取り扱いについて

睡眠時無呼吸症候群，最近の知見と検査機器について

当科における突発性難聴症例の検討

早水佳子先生

当科における鼻汁細菌検査についての検討

鼻茸とムチンについて

原田みずえ先生

当科における鼻出血症例について

川島雅樹先生

中耳炎予防ワクチンとPCについて

バイオフィームについて

Papillary and follicular variant of papillary thyroid carcinoma

(文責：下麥哲也)

6. 第12回 アレルギー週間

まずは、アレルギー週間について説明いたします。(財)日本アレルギー協会では、1995年より石坂公成先生がIgE抗体を発見した2月20日を「アレルギーの日」と制定し、その前後1週間を「アレルギー週間」として例年様々な活動を行うことになっています。

ところで、この度、(財)日本アレルギー協会九州支部からのご指導により、例年の「アレルギー週間」の時期に、今回鹿児島では初めて「アレルギー週間 市民講座」(一般市民向けの啓蒙を目的とした無料講座)(日本アレルギー協会九州支部と鹿児島大学病院耳鼻咽喉科の共催)を平成18年2月5日(日)、13時30分～15時30分に楽天KCプラザ(鹿児島市東千石町)で開催いたしました。

内容は、以下のごとくでした。

- I 知って得する花粉症のはなし 講師 鹿児島大学 教授 黒野祐一先生
- II 喘息治療の最前線 講師 今村病院 小児科 今村直人先生
- III 総合質疑 テーマ 「ここが知りたいアレルギー」

当日は、約50名の一般市民の参加を得て、事前に準備したテキストなども用いて、大変充実した講演会を開催することができました。

(文責：松根彰志)

同 門 会 総 会

平成17年1月21日（土）午後5時より鹿児島県医師会館の3階中ホール（1）にて総会員数116名のうち、33名の先生方の（実）出席（委任状を含めると69名）を得て、同門会総会が開催されました。平成17年度の事業報告並びに会計報告さらには平成18年度の事業計画ならびに予算案が承認されました。

会費の値上げに伴う会則の修正が行われました。これにともない本年から開業医10,000円、勤務医4,000円を集めさせていただきます。また、本年は日本耳鼻咽喉科学会関連の全国学会である、第35回日本耳鼻咽喉科感染症研究会、第30回日本医用エアロゾル研究会を9月1日、2日に主催（於、鹿児島市、城山観光ホテル）することになっており、同門会会員各位からの寄付等ご協力いただけるよう御願い致しました。その他の議事の詳細については、議事録を発送し報告とさせていただきます。

総会の終了後、学術講演会を開催しました。一般演題の部、特別講演の部と内容は以下のごとくでした。

一般演題

座長 花牟礼豊 先生（鹿児島市立病院）

1. 反回神経麻痺症例に対するアテロコラーゲン注入術について
大堀純一郎（鹿児島大学）
2. 滲出性中耳炎病態における上咽頭貯留液中IL-8について
林 多聞（鹿児島大学）
3. 炎症扁桃組織への経口抗生物質の移行に関する検討
西元 謙吾（鹿児島大学）

座長 朝隈真一郎 先生（朝隈耳鼻咽喉科）

4. 当科で経験した耳下腺木村氏病の1症例
高木 実, 平瀬 博之（県鹿屋医療センター）
5. 頸部外切開を要した下咽頭異物の1症例
出口 浩二, 原田みずえ, 宮下 圭一（県立大島病院）

特別講演

座長 黒野祐一先生（鹿児島大学 教授）

「アレルギー性副鼻腔炎をめぐる諸問題」

鈴木 秀明 先生（産業医大耳鼻咽喉科 教授）

例年どおり記念撮影も行われ、午後8時から同会館、3階中ホール（2）にて新年会も兼ねた懇親会が開催されました。

（文責：松根彰志）



鹿兒島大学大学院聴覚頭頸部疾患学教室同門会総会 平成18年1月21日 於、鹿兒島県医師会館

1. 巡回診療（県医務課）

上甑村 （6月11日～6月12日）

下甑村 （7月25日～7月26日）

2. 身体障害者巡回診療

7月 三島村（竹島）

8月 薩摩川内市里支所・薩摩川内市上甑支所

9月 田代町

10月 長島町

12月 菱刈町

1月 肝付町

2月 上屋久町・屋久町

3月 十島村（中之島）

3. 学校保健（統計報告）

平成17年4月～6月にかけて、当科において鹿児島県下の以下の耳鼻咽喉科学校検診を行った。

【対象地域】

鹿児島市，阿久根市，垂水市，西之表市，輝北町，財部町，志布志町，有明町，大崎町，松山町

【受診者数】

小学生5,161名，中学生3,973名，高校生（甲南高校生1年生のみ）318名

【対象疾患】

耳垢栓塞，滲出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔彎曲症，鼻アレルギー，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎，扁桃肥大の9疾患

【結果】

疾患別の有病率についてみるとここ数年の傾向と同様に鼻アレルギーが圧倒的に多く，次いで耳垢栓塞，慢性副鼻腔炎の順であった。有病率もここ数年の傾向と同様であった（図1）。耳疾患については慢性中耳炎以外では学年とともに低下傾向を認めた（図2）。鼻疾患では鼻アレルギーの学年間でのばらつきは認めるものの，おおむね1割前後の有病率であった（図3）。扁桃疾患では，扁桃肥大は学年とともに減少傾向であった。慢性扁桃炎は小1で3%である以外は，0.5%程度の有病率であった（図4）。

図1 疾患別有病率

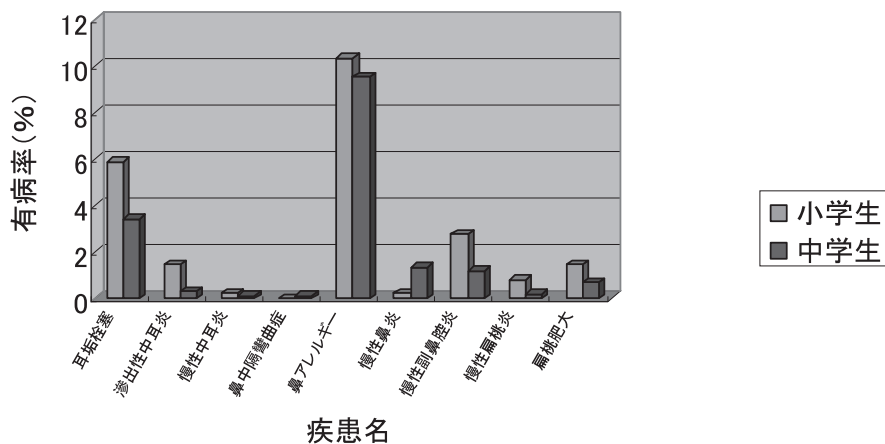


図2 学年別耳疾患有病率

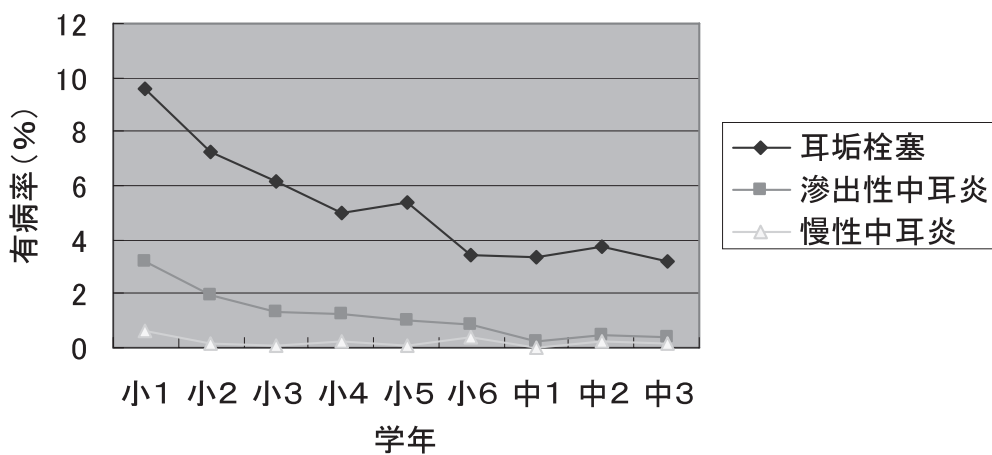


図3 学年別鼻疾患有病率

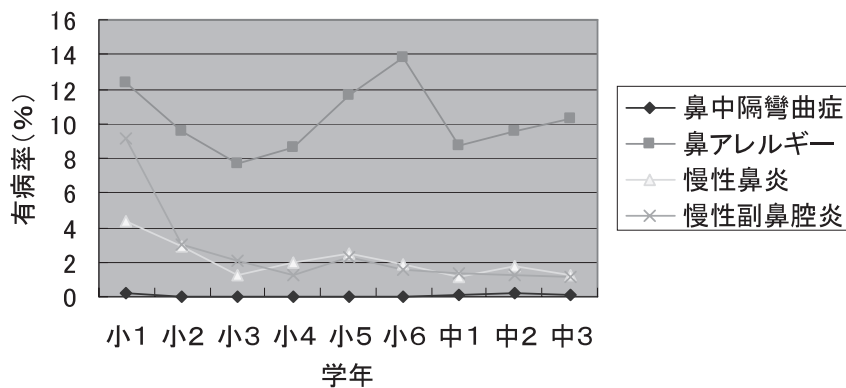
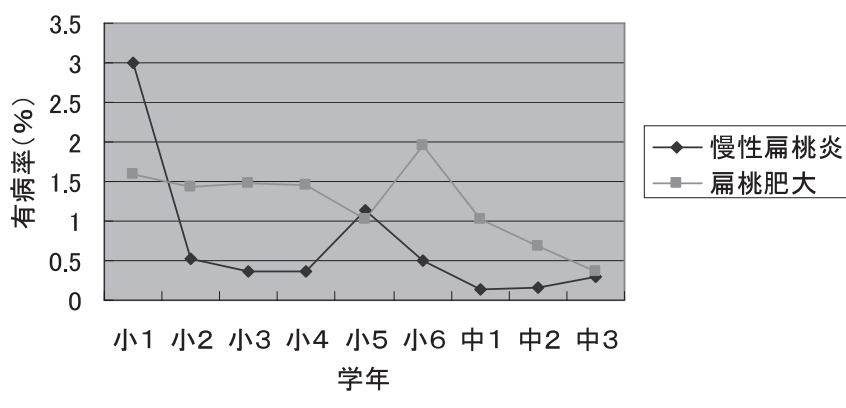


図4 学年別扁桃疾患有病率



(文責：川島雅樹)

1. アレルギー外来

毎週月曜日の午後2時～4時まで特殊外来としてアレルギー外来を行っております。アレルギー外来では、診断から治療、定期 follow まで一連の流れで行っておりますが、最近では花粉症の患者さんの初期治療、導入治療、維持療法をきちんと系統立てて、治療と管理を行っております。2006年度のスギ花粉症の状況としては、患者数は例年並みで、症状の強さとしては初期、導入、維持療法により、鼻閉感が改善している傾向が認められました。鼻汁、くしゃみもやや改善傾向にあったようです。このように、統計を行っていき、花粉症でもいかに症状を軽減していくか、検討を行っていきたいと考えております。

(文責：相良ゆかり)

2. 副鼻腔炎外来

慢性副鼻腔炎に対する、内視鏡下鼻内副鼻腔手術の術後を診ることを主な目的として始めた副鼻腔炎外来でしたが、最近では好酸球性副鼻腔炎の治療を中心に臨床経過を診ることが中心となっていました。具体的には、①東大医科研の井ノ上逸朗助教授との共同研究による好酸球性副鼻腔炎、特に喘息合併例、アスピリン喘息の遺伝子多型の研究、②ロイコトリエン受容体拮抗薬を中心とした薬物治療による、鼻茸粘膜への好酸球浸潤抑制効果などに関するデータが一定蓄積されました。①に関しては、臨床倫理委員会での承認を経た研究として、症例の蓄積は一区切りをむかえ、データの整理と論文作製の段階に至っています。また、②に関しては、平成18年の日耳鼻総会（東京、日本医科大学主催）での「好酸球性中耳炎、副鼻腔炎」のシンポジウムにおいても同様の問題が扱われ、ロイコトリエン受容体拮抗薬（モンテルカスト）に一定の好酸球浸潤抑制効果があることが報告されました。これは、当教室でのプラナルカストのデータとほぼ一致するものでした。当科では、更に第2世代の抗ヒスタミン剤との比較も行っており、興味あるデータを学会で報告できそうです。今後とも、臨床に直結した問題を検討していく古くて新しい「特殊外来」として地道に継続できたらと考えています。

(文責：松根彰志)

3. 頭頸部腫瘍外来：毎週木曜日（予約制）

頭頸部腫瘍患者の治療後のための特殊外来である頭頸部腫瘍外来もかなりの年月を経て、患者登録数も把握できない程に増加の一途をたどっています。今後の高齢化社会において、悪性腫瘍の発生率が増えることはあっても減ることは決してなく、この外来もかなり忙しくなることが予想されます。

平成17年4月から平成18年3月までに入院加療した悪性腫瘍症例数
(新規)

中咽頭癌	： 16例
喉頭癌	： 14例
下咽頭癌	： 12例
舌癌	： 10例
甲状腺癌	： 6例
口腔底癌	： 4例
歯肉癌	： 4例
唾液腺癌	： 4例
上顎癌	： 3例
上咽頭癌	： 3例
その他	： 4例
計	： 80例

最近の動向

1. 外来化学療法が増加しています。ここ3、4年前より再発予防という目的で、TS-1の内服療法を積極的に進めています。現在は、2週投薬1週休薬のパターンが多く、4週投薬2週休薬より合併症が少ないとされています。ただ、この治療には頻回な採血による全身的な合併症のチェックが必要になり、また、投与期間も最低半年から長いと2年以上の投薬をすることもあります。そのため、木曜日の外来でまずなくてはいけないことは膨大な患者さんの採血業務です。しかも、その日のうちに結果を確認しなくてはいけないので、いつも木曜日の外来は混雑状態です。
2. 外来で患者にインフォームドコンセントをとり、入院前に手術治療か放射線、化学療法が主体かをある程度決めた形で入院してもらっています。今までは、とりあえず入院して詳しい治療方針は後で決めることが多かったのですが、インフォームドコンセントが重要視されている昨今、曖昧な形で入院させることはなるべく避けています。

もちろん、治療途中で患者の翻意や病状の変化で臨機応変に方針転換することもあり、外来の時点での説明がすべてを決めるわけではありません。しかし、外来受診時、特に初診で診察した医師はかなりの責任を負うこととなります。外来医長の御苦勞もうかがえます。

ここ、2年間では新規登録患者はほぼ同数でしたが、今後は患者数が増加していくことに間違いありません。高齢者、合併症を持った症例、重複癌などの頻度も多くなり、治療に難渋することもしばしばです。鹿児島県における頭頸部癌を治療する中核病院として今後も努力を続け、さらなる癌治療の確立に努めたいと思います。

(文責：西元)

4. 難聴・耳鳴り外来

難聴・耳鳴り外来

毎週金曜日（午後）

補聴器外来

毎週月（終日）・水（午前）

難聴・耳鳴り外来は、2003年4月に開設以来、本年で3年を迎えるところです。現在も、持続して新規の患者さんのエントリーがあり、耳鳴りで悩まされている患者さんの多さを実感させられます。当外来では、主にTRT（Tinnitus Retraining therapy）を中心に行っていますが、やはり治療効果の高い群、低い群がありそうです。（TRTは、1980年代後半 Jastreboff によって唱えられた耳鳴りの神経生理学的モデルにもとづいて、1988年に Hazell（英国）、1990年に Jastreboff（米国）によってはじめられた指向性カウンスリングと音治療を組み合わせた耳鳴り治療法です。）

補聴器外来では、1）補聴器を持っているけどよくきこえない、あるいは2）補聴器の適応があるのかどうか、についての相談が最も多くみられます。相変らず通販で購入したり、購入してから調整をほとんど受けていなかったり、と補聴器に対する認識の低さも目立ち、患者啓蒙・指導の大切さを痛感する次第です。

(文責：宮之原郁代)

		総施行件数	972	(2005.4月～2006.3月)
		病棟	409	
		外来	563	
1)腫瘍	悪性			良性
喉頭腫瘍	SCC	43		papilloma 1
	SCC in situ	1		paraganglioma 1
	mucoepidermoid carcinoma	1		
甲状腺腫瘍	papillary carcinoma	5		follicular adenoma 9
				adenomatous goiter 5
上咽頭腫瘍	SCC	2		
	non-keratinizing carcinoma	2		
	lymphoepithelial carcinoma	1		
	malignant melanoma	1		
中咽頭腫瘍	SCC	32		squamous papilloma 2
	mucoepidermoid carcinoma	1		carvenous hemangioma 1
	lymphoepithelial carcinoma	1		
下咽頭腫瘍	SCC	24		
副咽頭腫瘍	SCC	1		schwanoma 2
	malignant peripheral nerve sheath tumor	1		pleomorphic adenoma 2
上顎洞腫瘍	SCC	7		
	small round cell tumor	1		
	primitive neuroectodermal tumor	1		
篩骨洞腫瘍	phosphaturic mesenchymal tumor	1		
鼻腔腫瘍	SCC	1		papilloma 8
				inverted papilloma 6
				squamous papilloma 3
				basal cell adenoma 1
				angiofibroma 1
耳下腺腫瘍	epithelial-myoepithelial carcinoma	2		Warthin tumor 17
				pleomorphic adenoma 11
				basal cell adenoma 1
				pleomorphic adenoma 1
顎下腺腫瘍				capillary hemangioma 1
舌腫瘍	SCC	18		
	papillary carcinoma	1		papilloma 1
軟口蓋腫瘍	SCC	1		
歯肉腫瘍	SCC	8		
口腔底腫瘍	SCC	5		
歯根部腫瘍				adenomatoid odontogenic tumor 1
下口唇	SCC	1		
耳介腫瘍	SCC	1		
	adenomatoid cystic carcinoma	3		
外耳道腫瘍	SCC	2		
中耳腫瘍	SCC	1		
頸部腫瘍	papillary carcinoma	1		
皮膚腫瘍				pilomatricoma 1
その他	malignant lymphoma(non-Hodgkin)	10		
	malignant lymphoma(Hodgkin)	1		
2)前癌病変	dysplasia		4	

(平成18年3月現在)

文部科学省科学研究費

基盤研究 (B) (2)

新世代広域スペクトラム経鼻ワクチンの開発とその有効性に関する研究

代表者 黒野祐一

分担者 松根彰志 西元謙吾 福岩達哉 小田 紘

1. 原 著

- (1) 西元謙吾, 大堀純一郎, 下麥哲也, 黒野祐一
ソルセイブ検査における味覚閾値の再現性について:
正常者での検討 (第1報)
日本口腔・咽頭科 17 (3) 別刷: 309-315, 2005
- (2) Dong Sun, Shoji Matsune, Junichiro Ohori, Tatsuya Fukuiwa, Masato Ushikai, Yuichi Kurono
TNF- α and endotoxin increase hypoxia-induced VEGF production by cultured human nasal fibroblasts in synergistic fashion
Auris Nasus Larynx 32:243-249, 2005
- (3) 川畠雅樹, 牛飼雅人, 福岩達哉, 西元謙吾, 松根彰志, 黒野祐一
自然治癒した挿管後披裂軟骨脱臼の2例
耳鼻臨床 98(8): 651-654, 2005
- (4) 吉福孝介, 松根彰志, 黒野祐一
好酸球性副鼻腔炎に対する経口ステロイド薬の有用性
耳鼻臨床 98(11):865-871, 2005
- (5) 森園健介, 西元謙吾, 早水佳子, 黒野祐一
扁桃周囲膿瘍重症例の検討
日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌 23: 92-95, 2005
- (6) Ikeda M, Aiba T, Ikui A, Inokuchi A, Kurono Y, et al
Taste disorders: a survey of the examination methods and treatments used in Japan
Acta-OtoLaryngologica 125: 1203-1210, 2005
- (7) Matsune S, Sun D, Ohori J, Nishimoto K, Fukuiwa T, Ushikai M, Kurono Y
Inhibition of vascular endothelial growth factor by macrolides in cultured fibroblasts from nasal polyps

Laryngoscope115 (11) : 1953-1956, 2005

(8) 黒野祐一

アレルギー性鼻炎・花粉症の診療における留意点
花粉症研究会報 17:1-7, 2006

(9) 西元謙吾, 大堀純一郎, 早水佳子, 松根彰志, 黒野祐一

扁桃周囲膿瘍における嫌気性菌の検討
日本嫌気性菌感染症研究 35 : 113-122, 2005

2. 総 説

(1) 黒野祐一, 松根彰志

臨床免疫学 (下) - 基礎研究の進歩と最新の臨床 -
臨床編 IV. アレルギーの臨床免疫学 アレルギー性副鼻腔炎
日本臨床 63 (増刊5) : 102-105, 2005

(2) 黒野祐一

頭頸部外科学手術における剥離鉗子
JOHNS 21(3) : 1069-1071, 2005

(3) 松根彰志, 黒野祐一

特集 知っておきたい難病の現況と対策 難病の種類とその特徴 -耳鼻科難病-
臨床と研究 82(7) : 21(1089)-24(1092), 2005

(4) 黒野祐一

耳鼻咽喉科学と粘膜免疫学の融合
感染・炎症・免疫 35(2) : 71(175)-73(177), 2005

(5) 西元謙吾, 黒野祐一

シリーズ/難治性疾患への対応
深頸部膿瘍
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 77(11) : 855-860, 2005

- (6) 宮之原郁代, 黒野祐一
 特集/ステロイドの上手な使い方
 ④ アレルギー性鼻炎（花粉症）におけるステロイドの上手な使い方
 アレルギーの臨床25(11)：36-40, 2005
- (7) 宮之原郁代, 黒野祐一
 一副腎皮質ステロイドホルモンの使い方—
 先端医療シリーズ35 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の最新医療
 先端医療技術研究所 282-286, 2005
- (8) 大久保公裕, 黒野祐一, 藤枝重治
 特集1：「花粉症の治癒をめざして」
 座談会 花粉症の治癒をめざして
 「Q & A でわかるアレルギー疾患」1(3)：276-290, 2005
- (9) 黒野祐一
 特集・反復性中耳炎
 ワクチン療法の現況と可能性
 MB ENTONI 56 (別刷)：71-76, 2005
- (10) Yuichi Kurono, David J. Lim, Goro Mogi
 Middle ear and Eustachian tube
 In “Mucosal Immunology” Eds: Jiri Mestecky, Michael E Lamm, Warren Strober, John
 Beienstock, Jerry R McGhee, John Bienenstock. Elsevier, 2005, in press
- (11) 黒野祐一
 話題 上気道粘膜免疫機構とアレルギー予防・治療戦略
 アレルギー科 20(5)：473-477, 2005
- (12) 松根彰志, 積山幸祐, 黒野祐一
 耳鼻咽喉科系のマクロライド療法
 感染と抗菌薬 18(2)：217-222, 2005

- (13) 松根彰志, 黒野祐一
 特集：病態に基づく副鼻腔炎の治療戦略
 副鼻腔気管支症候群の治療戦略
 JOHNS 22(1)：76-80, 2006
- (14) 宮之原郁代, 黒野祐一
 Wernicke-Korsakoff syndrome
 Wildervanck syndrome (cervico-oculo-acoustic syndrome)
 Williams syndrome
 Winter syndrome
 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
 症候群辞典 増刊号 78(5)：300-303, 2006
- (15) 黒野祐一
 アレルギー性鼻炎・花粉症の診療における留意点
 花粉症研究会報 17:1-7, 2006
- (16) 黒野祐一
 気管食道科医のための上気道感染症の診方
 日本気管食道科学会会報 57(2)別刷：186-190, 2006
- (17) Ikuyo Miyanochara, Yuichi Kurono
 Clinical Aspects of Atypical Delayed Endolymphatic Hydrops
 Proceedings of the Fifth International Symposium April 2-5, 2005
 Meniere's Disease & Inner Ear Homeostasis Disorders : 117-118, 2005
- (18) 松根彰志, 黒野祐一
 上気道と下気道の関連について
 呼吸と循環54：49-54, 2006
- (19) 松根彰志
 特集 花粉症治療は、この10年間どう進歩したか
 花粉症に対する抗ロイコトリエン薬の進歩とエビデンス
 アレルギーの臨床26：112-116, 2006

3. その他

相良ゆかり

紙上診察室 「慢性の痰」 南日本新聞, 平成17年7月19日

宮之原郁代

夏の長旅 乗り物酔い注意

南日本新聞, 平成17年7月28日

松根彰志

「アレルゲンの除去と鼻アレルギー」 アレルギー談話室(福岡) 平成17年11月5日

松根彰志

－花粉症について－ KKB 鹿児島放送 「新鮮！発見！かごしま農業王国：健康発見！伝」 平成18年2月23日

4. 国内学会発表

(1) 特別講演

九州大学耳鼻咽喉科講義 平成17年4月10日 (福岡)

「上気道免疫・アレルギー疾患」

黒野祐一

熊本大学医学部耳鼻咽喉科講義 平成17年5月27日 (熊本)

「粘膜免疫 (上気道疾患と粘膜免疫)」

黒野祐一

第67回日耳鼻千葉県地方部会学術講演会及び総会 平成17年6月19日 (千葉)

「慢性副鼻腔炎の病態と治療戦略」

黒野祐一

- 日耳鼻広島県地方部会研修会 平成17年7月2日 (広島)
「反復性中耳炎の問題点およびワクチン研究の現状と展望」
黒野祐一
- 島根大学医学部耳鼻咽喉科講義 平成17年7月25日 (島根)
「中耳炎と粘膜免疫」
黒野祐一
- 第7回島根県耳鼻咽喉科フォーラム 平成17年9月17日 (島根)
「慢性副鼻腔炎の病態とその治療戦略」
黒野祐一
- 第4回鹿児島大学耳鼻咽喉科研修会 平成17年10月27日
「アレルギー性鼻炎における Early Intervention」
黒野祐一
- 第13回九州ニューキノロンシンポジウム 平成17年11月5日 (博多)
「上気道感染症の診断と治療 -重症および難治症例への対応-」
黒野祐一
- 第7回上気道アレルギー疾患を考える会 平成17年11月10日 (鹿児島)
「スギ花粉症に対する初期療法の意義」
黒野祐一
- 第57回日本気管食道科学会 平成17年11月18日 (京都)
ランチョンセミナー
「気管食道科医のための上気道感染症の診方」
黒野祐一
- 第220回北九州耳鼻咽喉科臨床懇話会 平成17年11月25日 (小倉)
「慢性副鼻腔炎の病態とその治療戦略」
黒野祐一

アレルギー性鼻炎フォーラム2005 平成17年11月26日 (東京)

－初期治療の意義と効果－

「アレルギー性鼻炎・花粉症の診療における留意点」

黒野祐一

The Korea-Japan Joint ENT Round Table Meeting Korea-Japan Treatment Guidelines For Allergic Rhinitis

－Focusing on experience in prescribing anti-histamine agent－

Jeju, Korea 12 Dec. 2005

「Oral Anti-Histamine therapy in Allergic Rhinitis」

Shoji Matsune

学術講演会－花粉症患者さんの QOL 向上をめざして－

平成18年1月12日 (福岡)

「アレルギー性鼻炎・スギ花粉症の診療における留意点」

黒野祐一

滋賀アレルギー性鼻炎フォーラム 平成18年2月9日 (滋賀)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の診療における留意点」

－ガイドラインの視点から－

黒野祐一

第14回鹿児島アレルギー懇話会 平成18年2月16日

「スギ花粉症治療に関する最近の話題」

黒野祐一

第45回岐阜県耳鼻咽喉科医会研修会 平成18年2月19日 (岐阜)

「上気道感染症に対する粘膜ワクチンの現状と展望」

黒野祐一

環中海耳鼻科セミナー 平成18年2月23日 (米子)

「上気道感染症に対する粘膜ワクチンの現状と展望」

黒野祐一

串木野市医師会学術講演会 平成18年2月24日

「スギ花粉症診療における留意点」

黒野祐一

第5回アレルギー・臨床免疫医を目指す人達の為の研修会

平成18年3月18日 (福岡)

アレルギー診療ガイドライン：鼻アレルギー診療ガイドライン

黒野祐一

富山県学術講演会 ～アレルギー性鼻炎～ 平成18年3月23日 (富山)

「アレルギー性鼻炎・花粉症に対する治療戦略

－ガイドラインの視点から－

黒野祐一

(2) シンポジウム

第25回気道分泌研究会 平成17年5月28日 (三重)

「アレルギー性鼻炎の鼻汁中血管内皮細胞増殖因子に関する検討」

松根彰志

XVIII IFOS WORLD CONGRESS

International Federation of Oto-Rhino-Laryngological Societies

Rome, 25-30 June 2005

「Intensive Local Treatment of Sinusitis by YAMIK Method」

Y.Kurono

第23回呼吸器・免疫シンポジウム 平成17年10月8日 (東京)

「上気道感染症の憎悪因子」

黒野祐一

第55回日本アレルギー学会秋季学術大会 平成17年10月21日 (盛岡)

「アレルギー性鼻炎における早期介入の意義」

黒野祐一

—上気道疾患のマクロライド—

「サイトカイン，シグナル伝達，転写因子とマクロライド」

松根彰志，大堀純一郎，牛飼雅人，黒野祐一

教育セミナー

スギ花粉症に対する初期療法の位置づけ

黒野祐一

九州・沖縄 Airway Forum 2006 平成18年2月18日 (福岡)

「スギ花粉症に対するプラシラカストを用いた初期療法の有用性」

宮之原郁代

(3) 一 般

第106回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 平成17年5月19日～21日 (大阪)

「NALT 形成不全マウスにおける Phosphorylcholine 経鼻投与による免疫応答」

田中紀充，福山 聡，長竹貴広，宮下圭一，福岩達哉，清野 宏，黒野祐一

「甲状腺悪性リンパ腫の術前鑑別診断における PET の有用性」

谷本洋一郎，積山幸祐，西元謙吾，黒野祐一

第17回日本アレルギー学会春季臨床学会 平成17年6月2日～4日 (岡山)

「アレルギー性副鼻腔炎の分泌腺における血管内皮増殖因子の検討」

松根彰志，孫 東，吉福孝介，大堀純一郎，積山幸祐

福山 聡，福岩達哉，黒野祐一

「塩酸レボカバチン点鼻液によるスギ花粉症に対する初期療法の検討」

宮之原郁代，松根彰志，宮下圭一，相良ゆかり，黒野祐一

第29回日本頭頸部癌学会

第26回頭頸部手術手技研究会 平成17年6月15日～17日 (東京)

「頸部リンパ節転移症例における内頸静脈の処理と術後成績」

西元謙吾，林 多聞，吉福孝介，松根彰志，黒野祐一

「喉頭部分切除術の予後と問題点」

林 多聞，西元謙吾，福岩達哉，黒野祐一

第67回耳鼻咽喉科臨床学会・学術講演会 平成17年7月8日～9日 (松山)

「鼻粘膜病変による鼻閉を初発としたサルコイドーシス症例」

西元謙吾, 下麥哲也, 出口浩二, 黒野祐一

「難治性副鼻腔炎に対する経口ステロイド薬の効果」

吉福孝介, 松根彰志, 黒野祐一

第20回九州連合地方部会学術講演会 平成17年7月23日～24日 (佐賀)

「喉頭軟骨肉腫の1例」

早水佳子, 川畑隆之, 笠野藤彦, 花牟礼豊

「上咽頭悪性腫瘍における滲出性中耳炎の合併」

谷本洋一郎, 福田恭哉, 坂本伸吾, 西元謙吾, 黒野祐一

「歯根尖病巣から頸部壊死性筋膜炎を呈した1例」

川畠雅樹, 高木 実, 平瀬博之

第4回鹿児島めまい研究会 平成17年7月28日 (鹿児島)

「経過中に眼振が変化した良性発作性頭位めまい症の一例」

宮之原郁代, 宮下圭一, 相良ゆかり, 西元謙吾, 黒野祐一

「急性感音難聴で発症した聴神経腫瘍の一例」

相良ゆかり, 宮之原郁代, 谷本洋一郎, 黒野祐一

第12回マクロライド新作用研究会 平成17年7月15日～16日 (東京)

「慢性副鼻腔炎症例におけるマクロライドのVEGF産生抑制効果について」

松根彰志, 孫 東, 田中紀充, 積山幸祐, 吉福孝介, 福山 聡, 黒野祐一

第35回日本耳鼻咽喉科感染症研究会・第29回日本医用エアロゾル研究会

平成17年9月2日～3日 (金沢)

「扁桃周囲膿瘍の膿瘍局在部位と臨床像」

西元謙吾, 大堀純一郎, 早水佳子, 黒野祐一

第18回日本口腔・咽頭科学会総会および学術講演会

平成17年9月9日～10日 (旭川)

「味覚障害の予後判定におけるソルセイブ検査の有用性」

西元謙吾, 大堀純一郎, 宮下圭一, 黒野祐一

「口蓋扁桃B細胞RP105の扁桃病巣感染症への関与」

田中紀充, 福山 聡, 宮下圭一, 黒野祐一

第44回日本鼻科学会総会ならびに学術講演会

平成17年9月30日～10月1日 (大阪)

「内視鏡下鼻内副鼻腔手術における CT による術後評価の問題点」

吉福孝介, 松根彰志, 黒野祐一

「好酸球性炎症と鼻茸由来線維芽細胞の Eotaxin 発現の関連性について」

大堀純一郎, 吉福孝介, 谷本洋一郎, 松根彰志, 黒野祐一

第27回鹿児島感染症研究会 平成17年9月29日 (鹿児島)

「扁桃周囲膿瘍の膿瘍局在部位と臨床像」

西元謙吾, 大堀純一郎, 早水佳子, 黒野祐一

第15回日本耳科学会総会・学術講演会 平成17年10月20日～22日 (大阪)

「遅発性内リンパ水腫 5 例の検討」

宮之原郁代, 相良ゆかり, 黒野祐一

「小児滲出性中耳炎と上咽頭分泌液中 IL-8 の関連性について」

林 多聞, 田中紀充, 黒野祐一

第55回日本アレルギー学会秋季学術大会 平成17年10月20日～22日 (盛岡)

「好酸球性炎症と培養線維芽細胞における Eotaxin 産生能について」

松根彰志, 吉福孝介, 大堀純一郎, 谷本洋一郎, 黒野祐一

The 2nd Meeting Surface Barrier Immunology Study Group (SBARIS)

平成17年11月5日 (沖縄)

「Uniqueness of NALT development and immunity」

Satoshi Fukuyama

第57回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会

平成17年11月17日～18日 (京都)

「甲状腺悪性腫瘍と悪性リンパ腫に対する PET の有用性」

谷本洋一郎, 西元謙吾, 積山幸祐, 黒野祐一

「下咽頭癌症例における切除範囲と予後との関連」

宮下圭一, 西元謙吾, 大堀純一郎, 黒野祐一

第16回日本頭頸部外科学会総会および学術講演会

平成18年1月26日～27日 (久留米)

「当科における原発性上顎洞嚢胞2例の治療経験について」

林 多聞, 松根彰志, 黒野祐一

「上歯肉扁平上皮癌の臨床的検討」

吉福孝介, 西元謙吾, 林 多聞, 黒野祐一

第24回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 平成18年3月2日～4日 (三重)

「記憶型樹状細胞を介した長期持続性粘膜免疫を誘導する経鼻粘膜アジュバンドについて」

福岩達哉, 小林良喜, 関根伸一, 片岡宏介, Authur M Kreig, Jerry R Mcghee

「Phosphorylcholin 特異的粘膜免疫応答における鼻粘膜 B1細胞の役割」

田中紀充, 福山 聡, 長竹貴広, 宮下圭一, 福岩達哉, 清野 宏, 黒野祐一

5. 国際学会発表

5th International Symposium Meniere's Disease & Inner Ear Homeostasis Disorders

April 2-5, 2005 (Los Angeles, CA)

「Clinical Aspects of Delayed Endolymphatic Hydrops」

I.Miyanohara, Y.Kurono

5th Extraordinary International Symposium on Recent Advances in Otitis Media

April 24-27, 2005 (Amsterdam, Netherlands)

「The Role of VEGF in Otitis Media with Effusion」

Y.Kurono, K.Sekiyama, S.Matsune

「IL-8 production in the nasopharynx and its role in otitis media with effusion」

T.Hayashi, N.Tanaka, Y.Kurono

「Immune responses against Phosphorylcholine and its application for mucosal vaccine」

N.Tanaka, S.Fukuyama, K.Miyashita, T.Fukuiwa, Y.Kurono

XVIII IFOS WORLD CONGRESS

International Federation of Oto-Rhino-Laryngological Societies

June 25-30, 2005 (Rome)

「IMMUNE RESPONSES AGAINST PHOSPHORYLCHOLINE AND ITS APPLICATION FOR MUCOSAL VACCINE」

Y.Kurono, N.Tanaka, S.Fukuyama, T.Fukuiwa

「THE ROLE OF VASCULAR ENDOTHELIAL GROWTH FACTOR (VEGF) IN ALLERGIC AND NONALLERGIC RHINOSINUSITIS」

S.Matsune, Sun Dong, J.Ohori, K.Yoshifuku, M.Ushikai, Y.Kurono

「THE INFLUENCE OF EOSINOPHILIC INFILTRATION IN THE PRODUCTION OF CHEMOKINES IN CHRONIC SINUSITIS」

J.Ohori, K.Yoshifuku, Sun Dong, M.Ushikai, S.Matsune, Y.Kurono

25th Politzer Society Meeting Oct 5-9, 2005 (Soul)

「The Role of VEGF in Otitis Media with Effusion」

Y.Kurono

The 1st Symposium on Biomolecule Secretion Oct16, 2005 (Soul)

「Clinical aspect of mucosal immunity and its application for preventing upper respiratory infections」

Y.Kurono

1. 医局人事（平成18年5月現在）

教 授	黒野祐一
助 教 授	松根彰志
講 師	西元謙吾
助 手	相良ゆかり，福岩達哉，林 多聞，田中紀充
医 員	吉福孝介，大堀純一郎，下麥哲也，原田みずえ，川島雅樹 早水憲吾
大学院生	早水佳子，原田みずえ，宮下圭一，川島雅樹，牧瀬高穂
研修登録医	宮之原郁代，福山 聡

医 局 長	福岩達哉
外来医長	西元謙吾
病棟医長	林 多聞

関連病院（平成18年5月現在）

国立療養所星塚敬愛園	宮之原郁代
県立大島病院	出口浩二，永野広海
鹿屋医療センター	平瀬博之，高木 実
済生会川内病院	上村隆雄
鹿児島生協病院	積山幸祐
藤元早鈴病院	森園健介
あまたつクリニック	早水佳子
鹿児島市立病院	谷本洋一郎
鹿児島医療センター	宮下圭一

2. 学会報告

第106回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

谷本 洋一郎

第106回日本耳鼻咽喉科学会総会は平成17年5月19日～20日にかけて大阪国際会議場で開催されました。自分の演題は甲状腺悪性リンパ腫の術前鑑別診断におけるPETの有用性についての発表でしたが、厳しい質問にうまく答えられず、恥ずかしい思いをしました。大きな学会だけあってさまざまな分野のセッションがあり、興味深い発表も多く聞かせていただきました。同門会の先生方も多く参加されており、学会後は開業されている先生方と食事を御一緒させていただきました。大阪の高層ビルをボケーっと眺めていたら、田舎もん丸出しだからやめてくれと先輩Drに怒られたのを思い出します。

第17回日本アレルギー学会春季臨床大会

宮之原 郁代

2005年6月2日、3日、4日に岡山で開催された第17回日本アレルギー学会春季臨床大会に黒野教授、松根助教授とともに出席しました。岡山は、昨年の専門医講習会で訪れて今回が2度目でした。初日、岡山行きの飛行機が天候不良のため大揺れでどうなることかと思われましたが、なんとか無事に到着することができほっとしました。当教室からは、以下の2題を報告いたしました。

1. アレルギー性鼻副鼻腔炎の分泌腺における血管内皮細胞増殖因子の検討

松根 彰志 他

2. 塩酸レボカバスチン点鼻液によるスギ花粉症に対する初期療法の検討

宮之原郁代 他

今回は「アレルギー疾患の発症と重症化を防ぐーアレルギー科診療のあり方」という大会テーマで様々な分野の講演、セミナー、シンポジウムが企画されておりいろいろ情報収集もでき有意義でした。時節柄、家族へのおみやげに水蜜桃を買おうかな？と思いましたが、とても高価で手が出ませんでした。

第4回鹿児島めまい研究会

相 良 ゆかり

平成17年7月28日に第4回鹿児島めまい研究会が行われました。神経内科，脳外科，耳鼻咽喉科の合同の研究会でした。それぞれの科から，合計4題の平衡感覚に関する演題，発表があり，耳鼻科からは，宮之原先生の「経過中に眼振が変化した良性発作性頭位めまい症の一例」について，もう1例は自分の「急性感音難聴で発症した聴神経腫瘍一例」の2題の発表でした。また，特別講演では東京医科歯科大学の耳鼻咽喉科学分野の喜多村 健先生の「めまい up to date」の講演がありました。めまいに関する診察上のポイントについて大変勉強になりました。平衡感覚に関連した稀な症例の報告が各科からあり，参加者の先生方も多く，大変勉強になりました。

第67回耳鼻咽喉科臨床学会

吉 福 孝 介

第67回耳鼻咽喉科臨床学会は平成17年7月12日～14日まで愛媛県の松山市にて開催されました。当教室からは，黒野教授，西元先生と自分の3人で参加させて頂きました。

松山まで飛行機で行き，そこからタクシーにてホテルに到着しました。到着後に有名な道後温泉に行きました。夕飯は，ホテルのバイキング食べました。自分は2日目，好酸球の群で，好酸球性副鼻腔炎に対するステロイド内服療法に関する検討についての発表でありました。口演はポスターセッションとくらべて少なく，非常に心細かったのですが，なんとか質問には返答できホッとしました。学会自体は，耳鼻咽喉科における通常疾患についてであり，とても勉強になりました。

第29回日本頭頸部癌学会

林 多 聞

日本頭頸部腫瘍学会から日本頭頸部癌学会へと名称を改めて初めてとなる第29回頭頸部癌学会には大学から黒野教授と西元先生，私が参加しました。西元先生の演題は「頸部リンパ節転移症例における内頸静脈の処理と術後成績」，私は「喉頭部分切除術の予後と問題点」について発表しております。今回のシンポジウムは「下咽頭癌の治療戦略」

としてなかなか十分な成績の得られない下咽頭癌に対する今後の指針を、また「頸部郭清術の標準化と今後の展開」という頭頸部領域手術治療の根幹ともいえる頸部郭清術の標準化を提示するテーマでありました。さらには「頭頸部癌治療における再生医療」、そして機能温存の観点から広く普及してきた「頭頸部癌の選択的動注化学療法－その適応と限界－」と癌治療と機能温存再建までを網羅するシンポジウム構成でした。

また頭頸部手術手技研究会では、日常臨床において特に頭を悩ませている「頭頸部癌術後の局所合併症の現状とその対策」について様々な情報を得ることができ、今日の術後管理に反映させています。「エキスパートに聞く」のテーマで、永原國彦先生の「頭頸部癌治療における機能温存と手術手技」、波利井清紀先生の「FREE FLAPによる頭頸部再建の要点」と名人ならではの優れた手術手技と守るべき基本について講演を拝聴することができ、興味深い学会でありました。

第20回九州連合地方部会学術講演会

川 畠 雅 樹

第20回九州連合地方部会学術講演会は平成17年7月23、24日の2日にわたって佐賀市にて開催されました。私自身は「歯根尖病巣から頸部壊死性筋膜炎を呈した1例」について発表させて頂きました。

1日目は恒例の野球大会が開催されました。すばらしい晴天の下での試合でした。普段、なかなか体を思いっきり動かす機会がないぶん私も含め、皆が心地よい汗をかき楽しい時を過ごせたのではないのでしょうか。

夕方からは特別講演、教育講演が行われました。特別講演では日本耳鼻咽喉科学会理事長の上村卓也先生より「日耳鼻の当面する諸問題」についてお話がありました。耳鼻科医として補聴器の普及に努めるべきことを再認識いたしました。

教育講演でもすばらしいお話を拝聴することができました。特に、久留米大学の梅野博仁先生の「喉頭麻痺の診断と治療」と題された御講演では、上喉頭神経麻痺の際の喉頭所見や声帯内自家脂肪注入術など、鹿児島ではあまり経験することのない貴重な症例について、学ぶことができました。

今回、佐賀市を訪れるのは初めてでしたが、快適な温泉やいかの活造りなど魅力のあるところで楽しい3日間を過ごすことができました。

第35回日本耳鼻咽喉科感染症研究会・第29回日本医用エアロゾル研究会

西元謙吾

平成17年9月2日、3日の2日間にわたり金沢（金沢市アートホテル）で第35回日本耳鼻咽喉科感染症研究会および第29回医用エアロゾル研究会が開催されました。当教室からは黒野教授と西元が参加しました。特別講演は「感染症と環境－VNC菌の果たす役割－」という演題で、VNC（viable but non-culturable）菌が感染症患者から起因菌を同定できなくさせている可能性があることを知り、大変刺激を受けました。シンポジウムも「移植医療と感染症」という up-to-date な演題が揃っており、勉強になりました。私は「扁桃周囲膿瘍の膿瘍局在部位と臨床像」という演題を発表し、いくつかのディスカッションをさせていただきました。

しかし、なんといっても平成18年度の次期研究会が鹿児島で開催されることもあり、慣れない運営委員会などに出席したりしました。会場でも、演題そっちのけで会場内をデジカメで写しまくり、白い目で見られることもありました。おかげで、金沢の街並もほとんど堪能できていません。

平成18年9月1日、2日に開催される第36回日本耳鼻咽喉科感染症研究会・第30回日本医用エアロゾル研究会には皆様の御協力が是非とも必要です。慣れない事務局で申し訳ありませんが、よろしく申し上げます。

第18回日本口腔・咽頭学会総会・学術講演会

田中紀充

旭川は2度目であった。1度目は AKARS にて、雪の北海道を思いっきり楽しんだ。今回は初秋の北海道、残暑厳しい鹿児島とは大違いのさわやかな北海道であった。

西元先生が「味覚障害の予後判定におけるソルセイブ検査の有用性」私が「口蓋扁桃B細胞 RP105の扁桃病巣感染症への関与」の内容で発表した。

ザ・扁桃の原測教授が会長ということで、ここ数年 OSAS に侵食されていたこの学会であったが、今年は扁桃、病巣感染症にスポットが当たるプログラムで楽しく過ごさせていただいた。また、私は仙台の堀田先生の話をしっかり聞いたのははじめてであった。今後の扁桃を材料とした実験を進める上で、大いにモチベーションがあがった。平成18年・19年は病巣感染の研究で科学研究費をいただいたので、成果を、演題発表、論文という形で示せるよう研究を積み重ねる所存です。

第44回日本鼻科学会

大 堀 純一郎

第44回日本鼻科学会は、平成17年9月29日から平成17年10月1日まで大阪のホテル阪神で開かれた。本学会には当科より、黒野教授、吉福先生、大堀の3人で参加した。吉福先生は、内視鏡下鼻内副鼻腔手術におけるCTによる術後評価の問題点について、私は、好酸球炎症と鼻茸由来線維芽細胞のEotaxin発現の関連性について、演題を発表した。会場は、イヤホンを用いて演者の発表を聞くという新しい試みであったが、活発な討論がなされていた。本学会では、最近スタンダードとなっているESSについてのシンポジウムが開かれ、今後、ESSについても手術手技にたいする認定制度を設けようという提案がなされていた。評価については、手術件数と手術ビデオによるものとなる可能性が高いということであった。今後の耳鼻咽喉科の医療にとって、ESSは欠かせないものになりESS手技の研修、指導という問題点について大きく議論された学会であった。話はそれるが、学会期間中に阪神タイガース優勝がきまり、道頓堀はもちろん学会の懇親会場も大盛り上がりであった。懇親会場には阪神タイガースのマスコットであるトラッキーもあらわれた。阪神タイガース優勝というめったにない？機会に大阪で過ごすことが出来てラッキーな学会であった。

第15回日本耳科学会

林 多 聞

第15回日本耳科学会は大学から黒野教授と宮之原先生、私の三人が参加しました。演題は、宮之原先生の「遅発性内リンパ水腫5例の検討」と私の「小児滲出性中耳炎と上咽頭分泌液中IL-8の関連について」という2題でありました。シンポジウム「内耳障害改善への戦略-基礎的アプローチ」のなかで遺伝子導入を用いた蝸牛形態及び機能再生の試みや老人性難聴の発症機序及び予防法の検討などは非常に興味深いテーマでした。当科では慢性中耳炎の手術症例はほとんどなく、耳の手術といえば真珠腫性中耳炎というぐらいであり、また進行例が非常に多いのが現状であります。臨床セミナーに真珠腫性中耳炎の手術について取り上げられており、実地臨床で非常にためになるテーマでありました。一般演題の中でも特にビデオ演題は、普段見ることのない症例や手術術式を目にする貴重な機会を得ることができたと思います。

第57回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会

宮 下 圭 一

平成17年11月17日から18日にかけて、国立京都国際会館で開催された日本気管食道科学会に参加いたしました。私が発表するということが決まってから、学会の準備を進める一方、紅葉が見頃の秋で、しかも京都での学会ということで観光スポットやおいしいもののチェックなどの重要な準備もすすめなくてはならず!? いろんな意味で大変でした。発表についてですが、まずは17日に谷本先生が、「甲状腺悪性腫瘍と悪性リンパ腫に対する PET の有用性」(谷本洋一郎 西元謙吾 積山幸祐 黒野祐一)について発表し、18日に私が「下咽頭癌症例における切除範囲と予後との関係」(宮下圭一 西元謙吾 大堀純一郎 黒野祐一)について発表しました。そして18日のランチョンセミナーでは黒野教授が「気管食道科医のための上気道感染症の診方」と題して講演を行いました。耳鼻咽喉科専門医以外のドクターに上気道感染症の診方や診断のポイントなどをわかりやすく講演されました。17日の学会が終わって、男2人で夜の京都にくりだし、京都のおいしいものを満喫いたしました。夜の紅葉もライトアップされていてとても幻想的で、京都を十分に満喫できた学会でした。(文責：宮下)

第16回頭頸部外科学会

吉 福 孝 介

第16回頭頸部外科学会は平成18年1月26日～27日まで久留米で開催され学会発表をなるべく参加させて頂きました。当教室からは、黒野教授、林先生と自分の3人で参加させて頂きました。久留米駅に到着し、まず想像以上に駅が町並みと比べて小さいのでビックリ致しました。自分は2日目の口腔の群で上歯肉扁平上皮癌の臨床的検討の発表でありました。発表時間は、10時30分からであり、比較的朝の時間であったので聴衆はさほど多くはないかなと思っていましたが、そんなことはなく会場にヒトはびっしり入っていました。しかも第一会場であり自分にとってはかなり広く感じました。

発表後に質問がきましたが、自分はいまよく答えられませんでした。何とか切りぬけました。

学会自体は、頭頸部腫瘍における手術手技であり、非常に勉強になりました。

第18回気道病態シンポジウム

福 岩 達 哉

私にとって2005年最初の学会発表はこの気道病態シンポジウムでした。上気道に関するトピックを発表する場であることから、私の粘膜免疫ワクチンに関する研究を発表するようにと黒野教授よりご指名頂き参加させていただいた次第です。鹿児島大学からは黒野教授、田中先生、福山先生そして私の4人が参加しました。発表内容としては、アラバマ大学バームングハム校 (UAB) 留学中におこなった、二種類の DNA アジュバントを用いた粘膜免疫ワクチンの開発に関するものだったのですが、そのうち1種類である CpG 配列を含むオリゴデオキシ核酸 (CpG ODN) に関しては多くの質問を頂きました。CpG ODN は粘膜アジュバントとして用いると Th1 型サイトカイン反応を介してアジュバント効果を発揮する一方、アレルギー性鼻炎治療薬として期待されているものであり、アレルギー学的立場からの質問、自己免疫疾患発症の危険性などに関する質疑が多かったです。おかげさまで大変勉強になる学会参加となりました。学会終了後は福山先生に東京大学医科学研究所を案内してもらいましたが、そこで彼のボスである清野宏教授が休日にもかかわらず御仕事をされているところに出会いました。実は清野教授は黒野教授が UAB に留学されていた時のボスであり、その関係で私も UAB に留学させていただいた経緯があります。今でも清野教授は毎月アラバマと東京を往復されており、留学中はいろいろとお世話になっておりました。この日はアフタヌーンティーにお誘い頂き大変楽しい時間を過ごすことができました。学会を満喫したのみならず、医科研と白金台を満喫できたという、私のダブル DNA アジュバントのようにまさにダブルで相乗効果でした。

第24回免疫アレルギー学会

福 岩 達 哉

2006年3月、三重で開催された耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会に参加させていただきました。黒野教授、松根助教授、田中先生、福山先生と私の総勢5名で伊勢志摩国立公園に乗り込んでまいりました。初日は教育講演、特別講演とつづき、その後恒例のグラクソ・スミスクライン研究基金の授賞式がありましたが、今年は当教室の福山先生が見事に受賞され受賞の挨拶がありました。福山先生はアメリカ合衆国サンディエゴに留学予定でありその奨学金として本基金を獲得されました。先生の今後のご活躍とご成功を

祈りつつ皆でお祝いしました。私は翌日朝9時から1番目に口演でしたが、粘膜ワクチンに関する研究に対してアレルギー研究的側面からこれまで指摘されたことのないような質問等を頂き、非常にためになる質疑応答させていただきました。田中先生はポスターセッションで大勢が詰め掛ける中で見事に質疑応答をされていました。学会懇親会では、アラバマ大学バーミングハム校留学の際に現地で大変お世話になった和歌山大学耳鼻咽喉科保富先生との再会を果たすこともできて感激でした。学会終了後は伊勢参りなど行い、鹿児島大学耳鼻咽喉科の今後ますますの発展と、より多くの新入医局員獲得の願掛けを行いました。その甲斐あってか4月には二人の超大型ルーキーが入局され、これもまた免疫アレルギー学会のおかげと、ちらっとだけ思いました。

5th International Symposium Meniere's Disease & Inner Ear Homeostasis Disorders

宮之原 郁 代

2005年4月2日～5日にユニバーサルシティ（ロサンゼルス）で開催された5th International Symposium, Meniere's Disease & Inner Ear Homeostasis Disordersに黒野教授とともに参加いたしました。今回初めてこのシンポジウムの存在を知ったのですが、それもそのはずこれまで、第1回1980年デュッセルドルフ（ドイツ）、第2回1988年ボストン（U.S.）、第3回1993年ローマ（イタリア）、第4回1999年パリ（フランス）と数年おきに開催されてきているそうです。私は、「Clinical Aspects of Atypical Delayed Endolymphatic Hydrops」のタイトルでポスター発表を致しました。実のところ、ポスター発表ははじめてで、ポスター作成に四苦八苦いたしました。スライドとはまた違う「作る楽しさ」があるものだなあと思いました。指定の時間にポスターの所に立っていると、ポスターを見てくださった方から、いくつか内容について質問やコメントを頂くことができうれいことでした。また、レクチャーやパネルディスカッション、ミニシンポジウムなど充実しており内容も専門性の高いものでしたので、内耳領域における最新の情報や知見を得ることができとても有意義でした。レクチャーやセッションを聞いていて思ったのですが、どうしてこんなに欧米には重症のメニエール病が多いのか？また、両側メニエール病の頻度の高さには少し驚きました。このあたりは、日本における状況とはずいぶん異なるなあと感じた次第です。

最終日には、シンポジウムを主催されたLim先生の御案内でHouse Ear Instituteを見せて頂き、その充実した設備や教育システムを目の当たりにすることができました。

学会場のユニバーサルシティヒルトンに宿泊したのですが、ホテルの玄関にすーっと

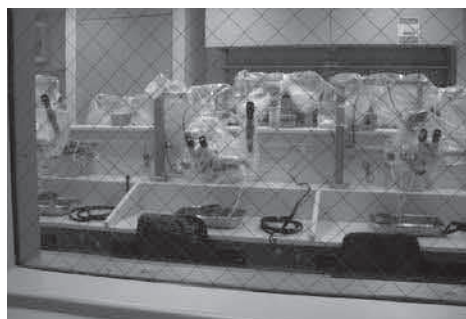
リムジンが横付けされる光景は、「ここはロスなんだなあ」と思わせました。私は、アメリカのテレビ番組「CSI」が好きで WOWWOW で毎回録画して試しているのですが、滞在中に放送されているところを発見しました。残念ながら新作ではなかったのですが、こちらでも相当人気の高いプログラムなのだなと思いました。

最後に黒野教授には、タクシーの手配など細々としたことからロデオドライブでのお買い物までおつきあい頂きました。本当にありがとうございました。とても快適で充実したロス滞在でした。この場をかりて厚く御礼申し上げます。

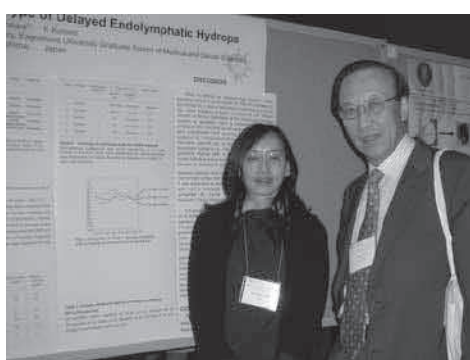
2010年には京都で第6回のシンポジウムが開催される予定です。something new を携え再び参加できればと思います。



House Ear Institute の前で



側頭骨削開の実習室



ポスターの前で

5th Extraordinary International Symposium on Recent Advances in Otitis Media 24-27 April 2005 Grand Hotel Krasnapolsky Amsterdam, The Netherlands

田中紀充

ベストシーズンのオランダへ、黒野教授、林先生、と私の3名で参加した。

私は Title : 「Immune responses against phosphorylcholine and its application for mucosal vaccine」の内容で初日に口演した。今回は英語の発音練習は十分行い、ゆっくりとある程度通じるようにプレゼンできたようである。質問も聞かれている内容までは理解できたが、キーワードを羅列することが精一杯で答えになっていなかったようである。またしても英語の高い壁に跳ね返された。ただ、座長の先生が粘膜免疫に対して素人であったようで、あまり突っ込んだ質疑応答にはならず、終わってしまった。黒野教授と林先生は、2日目のポスター演題であった。「IL-8 production in the nasopharynx and its role in otitis media with effusion」 T. Hayashi / 「The role of VEGF in otitis media with effusion」 Y. Kurono 林先生は、座長の J.-D.Li 先生 (House Ear Institute) と聴衆のいない中でマンツーマンの質疑応答がかなりの時間続いていた。

中耳炎に絞った学会であり、かなり基礎的な内容も多かった。現在、私は免疫応答の面からのみ感染症をみていたわけであるが、感染する細菌についての知識を持たないといけないことを感じたところであった。

チューリップ、運河、レンブラントの「夜警」・・・オランダを満喫して帰国した。

5th Extraordinary International Symposium
on Recent Advances in Otitis Media
24-27 April 2005 Grand Hotel Krasnapolsky
Amsterdam, The Netherlands



X VIII WORLD CONGRESS OF INTERNATIONAL FEDERATION OF OTO-RHINO-LARYNGOLOGICAL SOCIETIES

大 堀 純一郎

第18回 世界耳鼻咽喉科学会は、2005年6月25日から6月30日までイタリアのローマで開かれた。当科からは、黒野教授、松根助教授、私の3人で参加した。イタリアの6月は非常に暑く、いい天気であった。ところが、学会場につくと、なんと停電で学会がストップしていた。予備の発電機で運営されていた学会会場は外に設けられたテントのなかだけであり、テントの中はサウナ状態であった。幸い我々の発表日には電力は復旧しており、発表は無事行われたのだが、私と松根先生は、基礎的実験の演題だったにもかかわらず、Rhinoplastyのセッションの中に入れられており、会場の誰もが演題に興味がないようであった。学会期間中、ローマ市内、バチカンのシステーナ礼拝堂と火山により埋もれたポンペイの町を見学することが出来た。ローマ市内では、かねてから教授が「鼓膜のはげた耳」と表現されているコロッセオを見学し、ローマ時代の民衆をコントロールするための娯楽というものを勉強できた。システーナ礼拝堂では、ルネッサンスにまじかに触れることができ、ポンペイの町からは当時の高度な文明と、2000年たっても人間の本質はあまり変わっていないのだということが実感できた。私が、中学、高校と勉強したものを直に見ることにより教養というものを改めて認識した学会であった。

3. 関連病院便り

国立病院機構 鹿児島医療センター

松 崎 勉

平成18年4月より、九州循環器病センターから鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）と病院名も変わり、耳鼻咽喉科の診療も再開することとなりました。国立南九州中央病院、九州循環器病センターとして同門の諸先輩先生方が鹿児島の耳鼻咽喉科診療を支えて来て頂いたという歴史の中で、この一年間休診せざるを得ない状況になっておりました。平成16年8月まで勝田先生の下で診療・研修させて頂いた者として責任を感じておりました。今回、耳鼻咽喉科診療が再開できたことは、黒野教授のご理解・ご協力および当センター中村院長のご尽力によるところ大であり、当院の歴史、担うべき使命から、責務の重さを感じているところです。

診療につきましては、以前と同様に、頭頸部癌の診療を中心に、耳鼻咽喉科疾患全般の入院手術治療を中心に病診等の連携を図りながら、鹿児島の耳鼻咽喉科診療の一端を担うべく、同門の先生方、地方部会の先生方のご指導を戴きながらやっていきたいと思えます。また、大学医局の先生方の研修の場となれるよう一緒に頑張っていきたいと思えます。

“どこまでやれるかわからない”というのが今の実感ですが、宮下先生と少しずつ積み重ねながら新しいページを開いていきたいと思えますので、同門の先生方、地方部会の先生方、大学医局の先生方の御指導御鞭撻の程宜しくお願い致します。

県立大島病院便り

－ 第二報 －

出 口 浩 二

今回、県立大島病院へ赴任させていただき最長の丸二年が過ぎようとしています。これまでは二回奄美の冬を越すことはなかったのですが、今回二回目の冬を越す経験をして実感したことがあります。二度以上、奄美の冬を経験した島外の話によると二年目からはそれなりに寒いと実感するようになるというのですが、この暑がりの私も寒いと今冬は思いました。例年の冬より今年は全国的に寒かったという印象もありますが、それでも鹿児島市内の気温と比べて、名瀬の最低気温が鹿児島の最高気温を下回らない

環境を考えると、寒いと実感した私の体はやはり、温暖な奄美の気候に慣らされたと思わざる終えないと思います。

あと、もう一つここで実感したことがあります。県立大島病院耳鼻科に赴任された先生はおわかりと思いますが、ここは診察するユニットが外来窓口のすぐ近くにあります。順番で目の前に座った患者さんを診察しながら、カーテン一枚隔てて窓口での患者 vs 看護師の会話が聞こえてくるのです。遅い時間帯に受付をして、窓口ではいきなり何時に診てもらえるのか、早くしてもらえないのかなど、患者さんによっては対応する側からすると結構我ままと思われることを言ってきます。その会話を聞きながらつくづく医業（外来診療）もサービス業だと日々実感させられます。ただ反省すべき点もあります。症例によっては時間のかかり方が違って、例えば紹介状を持って受診した患者さんは、追加で検査を行ったりするため時間がかかるのに対して、再診の方は治療内容によっては一分もかからないケースもあります。それでいて待ち時間が2時間から3時間ということも日によってはあって。現在、予約制というほどのものではないのですが、診療時間の前半と後半に分けて再診に限っては予約をしてもらっています。なかなか厳密な予約制は難しいのですが、少しでも患者さんの不満、苦情を減らすことができるように三年目にはいる四月以降は、待たせず患者さんにとって効率的な外来診療を行うにはどうすればいいかという目標をすえて、充実した耳鼻咽喉科診療を目指したいと思います。

鹿屋医療センター便り

高 木 実

皆さんこんにちは。私高木が鹿屋に赴任し、早11ヶ月経とうとしています。大隅半島で唯一の手術可能な施設であり、少しでも大隅半島の住民の健康のため、お役に立てるように平瀬部長と共に頑張っております。赴任当初は当院の医療方針に慣れなくて、戸惑うこともありましたが、今となってはなかなか良い方針であり、近隣の病院や開業医の先生方の連携が素晴らしいと思っています。他科でもそうですが、耳鼻咽喉科でも月に1回耳鼻咽喉科開業医先生達と症例検討会を開催しており、親交を深めております。

ここで平成17年度の手術症例の一覧を提示します。

平成17年度手術 手術総数263人（内緊急手術16人）

a) 耳科領域（内悪性腫瘍0件）11件

耳瘻管摘出術2件 鼓膜閉鎖術1件

鼓膜チューブ留置術5件 鼓室形成術2件

顔面神経減荷術1件

- b) 鼻科領域（内悪性腫瘍 0 件）127件
鼻中隔矯正術・下甲介切除術58件
内視鏡下鼻内手術60件
鼻外副鼻腔手術（Lateral Rhinotomy 1 件 Denker 1 件）
上顎頬骨骨折観血的整復術 1 件 鼻骨骨折整復術 6 件
- c) 口腔・咽頭領域（内悪性腫瘍 3 件）70件
口蓋扁桃摘出術・軟口蓋形成術57件
アデノイド切除術 7 件 舌・口腔良性腫瘍切除術 3 件
舌悪性腫瘍手術 3 件
- d) 喉頭・気管・食道領域（内悪性腫瘍 1 件）56件
気管切開術14件 喉頭直達鏡下手術41件
喉頭悪性腫瘍手術 全摘 1 件
- e) 顔面・頸部等領域（内悪性腫瘍10件）45件
唾石（含顎下腺）摘出術 6 件 唾液腺腫瘍手術12件
頸部良性腫瘍手術10件 甲状腺良性腫瘍手術 7 件
甲状腺悪性腫瘍手術 9 件 原発不明頸部悪性腫瘍手術 1 件
- 以上です。

最後に私事になりますが、昨年は僕自身の当直当日の夜間台風が接近し、近隣に被害を起こしていましたが、当直明けに 4 階耳鼻咽喉科処置室より、テレビでしか見た事がない光景を目の当りにしました。それも僕自身の愛車にです。昨年は当たり年でした。今後も平瀬部長と共に頑張っていきたいと思います。



鹿児島市立病院便り

谷本 洋一郎

鹿児島市立病院に赴任してから、5ヶ月過ぎました。はじめはシステムの違い等から戸惑うことも多くありましたが、最近やっと慣れてきたところです。花牟礼先生、笠野先生、小松原先生、そして週一回は鹿島先生も小児難聴を中心として診察して下さり、それぞれの先生から学ぶことも多く、充実した生活を送らせていただいております。また、外来、病棟のスタッフも非常に働きやすい方々ばかりで、楽しく仕事が出来ています。確かに悪性疾患の患者さんが多く、主治医制であるため、自分にかかってくる責任も重くなりますが、わからないところは花牟礼先生や笠野先生に相談させていただきながら何とか対応しています。開業医の先生をはじめいろんな先生方からご紹介をいただくことも多く、いろいろたりない部分も多いと思いますが、今後ともよろしく願いいたします。

済生会川内病院便り

上村 隆雄

3月下旬、春休みをとって家族で3年ぶりに古巣の名古屋に行ってきた。昨年愛・地球博が開かれ、我が家が名古屋を離れてからのこの3年間で郊外の様子がずいぶん変わっていた。オープン一周年のセントレア空港から名古屋市街や郊外へ高速が走り、レンタカーを借りての旅行であったが、車での移動が以前に比べさらに便利になっていた。街は高層ビル建築ラッシュで、まさに「名古屋バブル」を見せられた感じである。旅行から帰ってきてしみじみと感じたが、我が故郷「川内」はやっぱり田舎であった。鹿児島から串木野まで開通している高速道路は、来年春によりやく川内まで到達する。いつ走っても空いているので快適であるが、経営面を考えるとゾッとさせられる。「この負担はいったい誰が・・・」。わずかな距離であるが、工事はシャクトリ虫のごとく、きわめてスローペースである。九州自動車道の八代まで全線開通するのは、いったい何時のことやら・・・。先日、新聞に中甕島と下甕島を結ぶ橋の建築事業が国家予算で認められ、今年度中に事業着手されるとの記事があった。甕島はいまや薩摩川内市の一員であり、われわれ薩摩川内市民にとっては注目すべきプロジェクトである。島民にとっては、40年来の念願が叶い大変結構なことである。総工費220億円、国負担3分の2、県負担3分の1で、多くの税金がつき込まれ、地方の財政を圧迫することは間違いない。甕島の

人口は現在約6,100人、約50%が65歳以上で、高齢者の割合のきわめて高い地域である。当然ながら、年々人口減少・過疎化が進んでおり、この橋が完成予定の2017年には、この島はどのような状況になっているのであろうか。この橋が島民にとってどれ程の恩恵を生み出してくれるのであろうか。都会と地方との格差が様々な分野で叫ばれているが、今回の春休みで、このことを強く感じ、問題の深さ、難しさを考えさせられた。

昨年、出水市立病院と大口の北薩病院、さらに隣県の水俣医療センターの耳鼻咽喉科常勤が休止され、ここ済生会病院にもジワリと影響が出てきた。第一に紹介患者、新患の増加である。2年前の着任後、再来患者の予約制を取り入れ、これはうまく機能しているようだ。自分のペースや患者数を考慮し、30分に2人ずつの予約とし、その間に新患等入れて対応している。遠方からの方が増加してきたので、昨秋より事前に紹介先からの連絡のある方については、医療連携を通じて予約をいれるようにした。また手術紹介も当然ながら増えており、現在2ヶ月待ちという状況で、地域の病院としては多少問題である。第二に遠方からの救急患者の依頼である。勤務時間帯では、できる範囲でなんとか対応しているが、問題は夜間である。市町村合併になったものの、医師会は以前のままである。薩摩川内市は、川内市医師会と薩摩郡医師会の二つ。また近隣には、串木野市医師会、出水郡医師会があり、北薩のこの広域な地域に入院可能な総合病院の常勤耳鼻科医は、現在なんと私1人である。川内地区は、川内市医師会の管轄で内科系と外科系、および小児科で当番医制度があり、輪番で済生会病院と川内医師会病院がそれぞれ約10回ずつ、その他は開業医が担当している。開業医も高齢化が進み、昨今の医療情勢からか夜間救急を辞退される施設も最近目立ってきた。済生会病院が担当日は、原則自宅待機で呼び出しスタンバイの状態であるが、その他はフリーである。病院も当番日以外は、救外スタッフは院内に少ないため対応困難である。川内地域以外の夜間耳鼻科疾患要請の電話がかかってくることもしばしばあるが、当番日以外は実際対応不可能である。

新しい研修医制度で学んだ先生たちが、今春から現場に出てくるのであるが、彼らに耳鼻科の救急外来プライマリーケアをお願いするにはまだまだ時間がかかりそうである。医師会あるいは、行政レベルで救急センター等施設が理想であるが、これもなかなか困難である。地方の基幹病院にヘリポートやドクターヘリすら持たないこの鹿児島県の地方でまず何ができるだろうか。地方では、耳鼻咽喉科を含め専門性の高い分野での救急対応はどうするのがベターなのであろうか。地方にとっては公共事業も大事であるが、行政、医師会、医療関係者が自分たちの地域のことを真剣は考えないと、医療の格差は、他の分野と同様にどんどん広がっていくであろう。地方での医療過疎化を実感している今日この頃である。

鹿児島生協病院便り

積山幸祐

2005年4月1日から江川雅彦先生のあとを引き継ぎ、一年が経過した。これまで経験したことのない数の外来患者にくわえ不慣れな電子カルテ、一人医師体制のためかなりハードな勤務であった。昼休みもほとんどなく昼食も十分取れないことが多く最初の一ヶ月で5kg体重が減った。(これはチャンスと10kg減を期待したが、最大7kg減ったものの一冬で戻ってしまった)

6月からは時間毎の外来予約制を取り入れある程度外来患者数をコントロールできるようになったが、生協病院の性質から完全予約制にはできず、最近でも土曜日(午前中のみの受付であるが)に80人を越えることがありたおれそうになった。24時間openの救急外来がありめまい患者もおおく、そのほとんどが耳鼻科に紹介されてくる。忙しい外来中にめまい患者を診るのは大変であるが小脳硬塞等の貴重な経験もできた。鼻出血もおおい。(救急当直はなくこの点は助かっている)

当初、耳鼻科の手術枠は、火曜日の午前中のみの週1単位であり学校健診も入っていたため手術はあまりできなかったが7月からは週2単位に増やしてもらい(いずれも午前中のみではあるが)手術数も増加した。05年4月から06年3月までの手術症例を示す。

扁桃摘 48例

アデノイド切除 3例

UPPP 1例

ESS 23例

Devi+con 2例

鼻前庭嚢胞摘出術 1例

鼓膜形成術 9側

鼓室形成術 1例

顔面神経減荷術 1例

LMS 7例

甲状腺切除術(乳頭癌) 1例

耳下腺切除術 5側(一例は腺様嚢胞癌)

副咽頭間隙腫瘍摘出術 1例

顎下腺摘出術 2例

側頸嚢胞摘出術 1例

眼窩壁骨折整復術 3例

先天性耳瘻孔摘出術 1例

粘液嚢胞摘出術 2例

天 辰 病 院 便 り

早 水 佳 子

私は、当病院へ、平成17年11月1日付けで赴任してまいりました。

当院は、40病床を持つ『天辰病院』と、外来を受ける『あまたつクリニック』で構成されております。

天辰病院では、常時、10人前後の耳鼻科入院が占め、その殆どが大学病院からの紹介です。そのため、厳しい症例が多いのが特徴的です。特に、癌患者さんの終末期医療を担当することが多く、複雑な化学療法や、麻薬処方、全身状態管理を行うため、師長、薬剤師をはじめ、スタッフ一丸となり取り組んでおります。それに伴い、患者さん家族との密接な繋がりも必要となり、細かな電話連絡や、家族との話し合いにもかなりの時間を要します。特に、島などの遠方からの入院は、個人病院であるがゆえ、しっかりと理解がないことには先に進まぬことが多く、私自身、勉強するところです。

化学療法は、クリティカルパスを作成し、異常状態の早期発見や全看護師への理解の統一化を図ることが可能となりました。急変期には、ICUチャートに準じた集中管理チャートを作成し、細かな医療、看護の徹底を図っています。

また、当院は、消化器内科を併設し、胃ろう（PEG）造設をスムーズに施行することが出来るため、頭頸部領域のQOLの上昇にも貢献しています。

長期IVH管理が必要な場合は、当院麻酔科にて専門医による埋め込み型IVH術を施行し（BIRD）、じつに7年以上の中心静脈管理を可能とします。

眼科も併設のため、糖尿病の知識にも長けているスタッフが揃っております。それ故、血糖管理も実に繊細なフォローが可能です。次々に出される糖尿病専門医からの指示にも確実に対応し、栄養士も各個人の状態を実際に患者全員に面談して把握し、食事を提供するといった徹底ぶりです。

平成18年4月3日から、ヘリカルCTが導入し、画像診断にも活躍しております。近医からの画像依頼も受け付けておりますので、ご連絡下さい。

あまたつクリニックは、一日平均50名前後の患者さんがいらっしゃいます。住宅地に立地していることもあり、学童期のお子さんがとても多く、学校がお休みである土曜日は、待合室はさながら教室状態です。授業で描いた絵画や、工作をお礼に持ってきてくれ、壁にはアンパンマンや、折り紙のカニや、ちょうちょが賑わいを見せています。

個人病院であるがゆえ，スタッフ同士が非常に仲良く，チーム意識があるのが当病院です。一患者さんに対し，その家族も含めて，皆で考えて行こうという意識で，良き意見はすぐに取り入れ改善していく次第です。私も，その一員として頑張っていくところであり，この病院がとても大好きです。これからも宜しくお願いします。

X. 関連病院

(平成18年4月現在)

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
国立病院機構 鹿児島医療センター	892-0853	鹿児島市城山町8-1 TEL:099-223-1151 FAX:099-226-9246	月・水・金 (8:30～11:00)	月・火・水 木・金
国立療養所星塚敬愛園	893-0041	鹿屋市星塚町4204 TEL:0994-49-2500 FAX:0994-49-2542	火・木 (8:30～17:00)	
県立大島病院	894-0015	名瀬市真名津町18-1 TEL:0997-52-3611 FAX:0997-53-9017	月～金 (8:30～10:00)	火・木・金
県民健康プラザ 鹿屋医療センター	893-0013	鹿屋市札元1-8-8 TEL:0994-42-5101 FAX:0994-44-3944	月・火・水・金 (8:30～10:30)	月の午後 木
鹿児島市立病院	892-8580	鹿児島市加治屋町20-17 TEL:099-224-2101 FAX:099-223-3190	新患 月・水・金 再診 火・木 (8:30～11:00)	月・水・金
済生会川内病院	895-0074	川内市原田町 2-46 TEL:0996-23-5221 FAX:0996-23-9797	月～土 (8:00～11:00) 月・金のみ(再診) (14:00～16:30) 水の午後 第1・第3 特殊検査 第2・第4 補聴器外来 (14:00～16:30)	火・木の午後

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
鹿児島生協病院	891-0141	鹿児島市谷山中央 5丁目20-20 TEL:099-267-1455 FAX:099-260-4783	月・火・木・金 (8:30~17:30) 水・土 (8:30~12:30) (新患は30分前まで)	火・水・木 の午前
今村病院分院	890-0064	鹿児島市鴨池新町11-23 TEL:099-251-2221 FAX:099-250-6181		
藤元早鈴病院	885-0055	都城市早鈴町17-1 TEL:0986-25-1212 FAX:0986-25-8941	月・水・木・金 (9:00~17:00) 火 (9:00~11:00)	火の午後
市比野記念病院	895-1203	薩摩郡樋脇町市比野3079 TEL:0996-38-1200 FAX:0996-38-0715	火・木 (14:00~18:00) 土 (9:00~18:00)	
あまたつクリニック	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘4-1-6 TEL:099-264-5553 FAX:099-264-1771	月・木・金 (9:00~18:00) 火 (14:00~18:00) 土 (9:00~13:00)	火の午前

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
垂水中央病院	891-2124	垂水市錦江町 1-140 TEL:0994-32-5211 FAX:0994-32-5722	火・木 (13:30~16:00) 土 (8:30~11:30)	
加治木温泉病院	899-5241	始良郡加治木町木田字 松原添4714 TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778	火・木 (8:30~11:30)	
田上病院	891-3198	西之表市西之表7463 TEL:09972-2-0960 FAX:09972-2-1313	火 (9:00~17:30) 水 夏(14:00~17:00) 冬(14:00~16:20)	
阿久根市民病院	899-1611	阿久根市赤瀬川4513 TEL:0996-73-1331 FAX:0996-73-3708	火・金 (8:30~15:30)	
指宿鮫島病院	891-0406	指宿市湯の浜1-11-29 TEL:0993-22-3079 FAX:0993-22-3019	火・木 (8:30~17:30) 水(13:30~17:30) 土(8:30~12:00)	
栗生診療所	891-4409	熊毛郡屋久町栗生1743 TEL:09974-8-2103 FAX:09974-8-2751	第1・第3 金(8:00~16:00) 土(8:00~10:00)	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
豊永耳鼻咽喉科医院	868-0037	人吉市南泉田町120 TEL:0996-22-2031	第2・第4 土(9:30~15:00)	
鹿児島厚生連病院	890-0061	鹿児島市天保山町22-25 TEL:099-252-2228 FAX:099-252-2736	火・金 (8:30~17:00)	
公立種子島病院	891-3701	熊毛郡南種子町 中之上1700-22 TEL:0997-26-1230	各週木曜日 (8:30~16:00)	